Lifestyle Design Center
Annual Report

2014

April 2014 — March 2015

旅する生活工房

生活工房　アニュアルレポート2014

Lifestyle Design Center Annual Report 2014

April 2014 — March 2015

生活工房アニュアルレポート2014

正月飾り製作：永井俊平　撮影：佐藤基

生活工房アニュアルレポート2014　特集

旅する

APRIL 2014 ⟶ MARCH 2015

生活工房

今年度の生活工房は、世田谷区をはじめ国内外で活動する方々と出会い、
そこにある暮らしや文化を紹介してきました。
世田谷区のローカルから、北は北海道、南は沖縄。
海外へ飛び出すと、南米ペルー、オホーツク海サハリン、
世界３大ブナ帯のアメリカ北東部やヨーロッパ北西部……。
さらに世界地図を塗りつぶしていくかのような人類のグレートジャーニー！
そんな古今東西の人々の営みや日々の暮らしが堆積して
生活工房はかたちづくられています。
このアニュアルレポートでは、ご協力頂いたみなさんの
“ある日”を切り取ることでわたしたちの１年間を振り返ります。
それはまるで旅をするかのように――。

イラスト：塩川いづみ

生活工房 1年の旅

2014

4 APRIL
- 世田谷アートフリマvol.21
- 世田谷アートフリマ つながり展2014

5 MAY
- 写真とことば、記憶の種　福島―東京
  - P.12 福島・飯館村
  - P.13 福島・南相馬市
  - P.17 大阪・西成区
- 一服、日本茶、三軒茶屋展
  - P.18 奈良・月ヶ瀬

6 JUNE
- 世田谷おはなしネットワーク講演会「ぼくの絵本の作り方」

7 JULY
- 世田谷民話グラフィック展
  - P.20 世田谷区・野毛
  - P.21 世田谷区・喜多見

8 AUGUST
- 朝のサマー・トートバッグ・ワークショップ
  - P.15 静岡・南伊豆町
- 市民活動支援コーナーの日々展2014
  - P.22 世田谷区・太子堂

9 SEPTEMBER
- 世田産―setasan セタガヤ デザイン プロジェクト
- 夏の子どもワークショップ2014
  - 「くらし・うるし・研究室」
  - 「14歳のワンピース」
  - 「夏のNEWSなアニメーション！」
  - 「おはなしいっぱい」
- 朝のワインとテリーヌのワークショップ
  - P.23 世田谷区・梅丘
- 世田谷アートフリマvol.22
- 次世代車を組み立てよう！

10 OCTOBER
- 7つの海と手しごと《第5の海》「オホーツク海とウイルタのイルカ」
  - P.14 ロシア・サハリン州
- パオフェスタ2014
- モッズスーツと洋服の並木
  - P.24 世田谷区・松原
- 分解ワークショップ 家電製品の仕組みを探ろう！
- JAPONDER 2014
  - P.9 ペルー・リマ

11 NOVEMBER
- DAYS JAPAN写真展
  - P.11 パレスチナ・ラーマッラー
- 世田谷おはなしネットワーク講演会「科学絵本て面白い！」
- 朝のクリスマスケーキとリースのワークショップ
  - P.25 世田谷区・松陰神社前

12 DECEMBER
- 時をときはなつvol.1
- 稲藁と羊毛でつくる“末年”の正月飾り

2015

1 JANUARY
- 羊と手―衣服と作り手、その生き方
  - P.6 北海道・白糠町

2 FEBRUARY
- 連続講座・知の航海 vol.1「都市と食の文化論」 vol.2「オーガニックな食と思想」 vol.3「『和食』とは何か？」 vol.4「狩猟から考える」
  - P.7 カナダ・ユーコン準州
- NPO・市民活動のための「物語」のつくり方講座

3 MARCH
- 連続講座・知の航海 vol.5「食べることの未来」
  - P.10 秋田・秋田市
- ブナ帯☆ワンダーランド
  - P.8 宮城・唐桑町
  - P.16 ルーマニア
- 国際交流inせたがや2015
- 時をときはなつvol.2
  - P.19 沖縄・南城市

APRIL 2014 ⟶ MARCH 2015

ヘラジカを待ちながら

山口未花子　岐阜大学地域科学部助教

＊

肌寒い外の空気から逃れるように潜りこんでいた寝袋の中に、煙の匂いがただよってきた。思い切って寝袋から抜け出し厚手のセーターを着こんで、キャンプ地の真ん中にしつらえた焚火のそばへ行く。F氏がちょうど朝のコーヒーを入れたところだ。

ここはカナダ、ユーコン準州の先住民カスカの人々が昔から暮らしてきた森の中。狩猟のシーズンである9月にもなると朝はとても寒い。いつも猟に連れてきてくれるカスカの古老F氏とコーヒーを飲みながらも、向こうに見える川岸からは目を離さない。運がよければすぐに撃てるように、ライフルには弾が込められている。実際、何年か前、F氏と娘と3人で狩猟に来た時にはこんな朝に若いオスのヘラジカを獲ったこともある。

結局この日はそんな幸運には恵まれず、夜までヘラジカを見かけることはなかった。それでも森の中で猟について学び、植物を採集して満ち足りた一日だった。夜の焚火のお供はオーロラだ。オオカミの遠吠えも聞こえる。

寝袋に入って寝息を立てるF氏を横目に、眠い目をこすりながらその日の出来事をフィールドノートに書く時間だけ、私は一瞬、研究者の自分に戻り、書き終えると同時に眠りにつく。明日はヘラジカに会えることを夢見ながら。

やまぐち　みかこ
1976年生まれ。2005年よりカナダ・ユーコン準州の先住民カスカの古老より動物に関する様々な実践を学んでいる。著書『動物と話す人々』『人と動物の人類学』（春風社／2012年）、『ヘラジカの贈り物：北方狩猟民カスカと動物の自然誌』（春風社／2014年）

Yukon
カナダ・ユーコン準州

旅する生活工房
APRIL 2014 ⟷ MARCH 2015

本稿の関連事業「知の航海」はP.52をご覧下さい。

命のリレーの先にあるもの

武藤浩史　羊飼い

＊

朝4時半、北国の冬はまだ満点の星空、羊の出産シーズン真っ只中、羊舎の見回りをする。気温マイナス10℃、といっても最近は温暖化で以前よりはまし。仔羊の甲高いメーメーという鳴き声が聞こえる。湯気の立つ仔羊を母羊が舐めている。舐めることで、母の体温で子羊は乾くのである。安産なので、臍（へそ）の緒の消毒だけして、しばらく母に任せる。一周見回り、母子の様子を看ると、双子になっていた。子どもを抱くと母が奪われまいとベーベー鳴く。誘導して、乾いたワラを敷いた囲いに入れる。後は初乳を飲めば大丈夫。

外にでると東の空がほんのり白んでいる。家に入り、短い朝食を済ませ、外作業は優秀な羊飼いに任せて、私は肉の加工を始める。昨日屠場（とじょう）で屠殺（とさつ）した羊の骨付きの枝肉をカットして、注文に応じて出荷していく。お届け先では大切な命を受け取って、美味しく調理して、余すことなく食べつくしてくれるわけで、これが命のリレーとでもいいますか、先ほど生まれた仔羊も10か月後にはお肉になっていくかもしれない。

夕方一段落したら今度は机に向かって、書類の山との格闘で、気力が尽きたところで、就寝となるわけです。優雅な田舎暮らしとは程遠い日々の先に何があるのか、まだ不明です。

本稿の関連事業「羊と手―衣服と作り手、その生き方」はP.40をご覧下さい。

むとう　こうじ
茶路めん羊牧場。気候が羊の生育に適している北海道白糠町に1987年に入植し、牧羊を始める。現在、約800頭を飼育し、美味しい羊肉の提供と普及、羊に関する新たな仕事にもチャレンジしている。

Shiranuka
北海道・白糠町

Lima

ペルー・リマ

レイジーな日曜日

バネッサ・ロシオ・ブラカモンテ・レスマ　留学生

*

On Sunday morning, I wake up early to go running with my father and sister. We go out at 7 a.m. and walk to the running lane that goes behind the apartment complex where my family lives. Many people run on the lane, especially in the weekends when there is less traffic on the road. Lima has a terrible traffic problem, and during the weekdays there is too much noise and smog. But early morning in the weekends it is mostly quiet and good for running. My mother also came out to do some exercise on the lane, but she doesn't like running so she walks with her friend, who is our next door neighbor. The running lane ends at a cliff that overlooks the Pacific Ocean. It is a very beautiful view.

After returning to the apartment and taking a shower, we all have breakfast together. We have coffee and milk, french bread with cheese or with jam and butter, and an orange, pineapple and papaya fruit smoothie that my mother prepares every day. Because it is Sunday, my sister and I also prepare french toast, bacon and sausages. We take a long time between eating and talking, and when we finish it is almost noon already.

Sundays are very lazy days, so after breakfast I read a book while my family watches TV in their rooms. At around 4 p.m. we have a light meal and then we go visit my aunts that live in a nearby building. We don't stay too long, and after returning we gather in the living room to watch a movie while eating dinner.

日曜の朝7時、私は父と妹とランニングへでかけます。渋滞のひどいリマも、週末の朝は車が減って走るにはもってこい。太平洋の絶景を眺めて帰宅すると家族で朝食。フランスパンにチーズやジャム、オレンジやパイナップル、パパイヤのスムージー。いつもは母が準備するけど日曜は私も妹も手伝います。食べながらおしゃべりをしているともうお昼に。

日曜日はゆったりで、私は部屋で本を読んで過ごします。4時過ぎに近くに住むおばを訪ね、帰ってきたら家族で映画を見ながら夜ご飯を食べます。

バネッサ・ロシオ・ブラカモンテ・レスマ
ペルーの首都リマ出身。大学卒業後にオンラインショッピングの発展について研究。現在博士号を取得するため東京に留学中で、Eコマースにおける消費者行動について調べている。

本稿の関連事業「JAPONDER 2014」はP.53をご覧下さい。

Karakuwa

宮城・唐桑町

喫茶店と直売所

藤原理恵　食の学校

*

年の瀬も28日ともなると何とも忙しい。

今日は、私が事務局をしている直売所の「歳の市」。仏壇にお茶を供え、今日一日の無事をお願いする。朝食は舅と二人で……。日課の朝ドラは年末でお休み。主人は、たいてい9時起床。でも、今日は少し早めに起きてもらう。

先ず、本業の喫茶店の開店準備。近頃は、喫茶店というよりはお弁当屋さんに近い。いつのまにかお客さんが名付けた「日替わり弁当」というものが出来てしまった。予想外の展開に毎日日替わり惣菜を作る。忙しい日はハンバーグ。これは主人の十八番なので安心。むしろ主人の方が評判がいい。副菜だけ作り私は直売所へ。

昼12時開店なのに「夕市」という名前の毎週土曜日開催の直売所。開店の一時間も前なのに、もうお客さんで溢れている。地元産の野菜や生牡蠣に蛸、手作りの惣菜、正月用の花や餅を求めて、まるでバーゲンセールのような賑わい。嵐のような時間が過ぎ去り、直売所を閉めて家に帰る。

今夜は忘年会の予約が入っている。野菜も牡蠣も買って来た。さあ、ここからまた本業。もうひとふんばりだ、頑張ろう。

こうして一日が過ぎていく……。

ふじわら　りえ
1962年1月19日生まれ。気仙沼の高校卒業後、仙台の調理師専門学校入学。卒業後、仙台で2年間働き地元唐桑に帰る。現在の夫が経営する喫茶店に勤め、4年後にそのまま永久就職。1995年唐桑の新しい郷土料理の研究のため「食の学校」設立。初代会長になる。

本稿の関連事業「プナ帯☆ワンダーランド」はP.34をご覧下さい。

Ramallah

パレスチナ・ラーマッラー

水タバコで自問自答の日々

並木麻衣　日本国際ボランティアセンター

＊

家の前を通る羊たちの「カランコロン」という鈴の音で目を覚ます。大学は休みの金曜日、窓の外は秋晴れ。西岸地区一の繁華街ラーマッラーで水タバコを吸いたいな、と思う。

バスから街に降り立ち、朝ごはんにお気に入りのケバブ屋へ立ち寄る。私のカメラに気付いた店員の兄ちゃんが、「撮って！」とポーズを取る。笑って応じる私。「ニホンジン」を珍しそうに囲んでいた客たちも笑う。

店を出ると今度は若者たちが声をかけてくる。「写真撮ってくれよ！」。いいよ、と応じると、彼らをたしなめていたオジサンまでちゃっかり写真に収まっていた。この人たちは本当に人懐っこい。笑顔の彼らのことを今日のパレスチナ紹介ブログに載せよう、と思って訊く。

「あなたたちの写真、ネットの日本語記事に載せてもいい？」

「いいよ！」と二つ返事で皆が答える。

「僕らは多分、一生パレスチナから出られないけれど、代わりに僕らの写真が日本へ旅する。素敵なことじゃないか」

その瞬間、私は思い出す。彼らが「パレスチナ問題」の当事者であること。彼らが解決できない国際政治の重みや、好きなところに行くことすら叶わない人権侵害の存在。彼らと別れ、カフェの常連たちと落ち合って水タバコを吸いながら、今日も自分に問う。笑顔の彼らに、一体私は何を返せるだろうか、と。

なみき　まい
日本国際ボランティアセンター・パレスチナ事業担当。大学でアラビア語を学びパレスチナ・イスラエルへ留学。友人のために日本からできることを探すべく帰国し、現在はNGO職員として現地での人道・開発支援に携わる。

本稿の関連事業「DAYS JAPAN写真展」はP.35をご覧下さい。

旅する生活工房
APRIL 2014 ⟷ MARCH 2015

Akita

秋田・秋田市

冬の幸、神の魚

石倉敏明　人類学者／秋田公立美術大学講師

＊

朝7時起床。10時過ぎに車で家を出発。子ども二人と妻を連れて、四人で男鹿半島の北浦漁港へ向かう。昼頃に到着。番屋には母さん方があつまり、談笑していた。子ども連れだと一気に打ち解けられるから不思議だ。蜜柑とインスタントコーヒーをご馳走になり、暫く話を聞く。男の漁師たちは数日前から番屋に泊まり、ハタハタの群れが来ると真冬の海に命懸けで繰り出していく。今朝も午前1時頃から漁に出ていたそうだ。海は少し荒れてきたとのこと。今年は例年より漁獲量が少ないそうで、心配だ。沿岸の藻類が減って、卵を産み付ける場所が少なくなってきたんじゃないか、とのこと。

2年物は具合が良かったが、雌の数は少なかった。漁師さんをまねて、浜に打ち上げられたゴムボールみたいな卵をガムのように噛んでみる。しょっぱい。大半の卵は沖へ返しに行くと聞いた。魚の棲む海は僕たちの内臓の裏返された姿であり、身体と直に繋がっているように感じる。市場卸値はいつもより高めで、1キロ2千円。だが、漁師のおかみさんは大袋に立派な雄雌を詰めて、なんと7キロ千円で分けてくれた。冬の幸であり、神の魚ともいわれるこの魚は、年に一度訪れる来訪神のように思える。

いしくら　としあき
秋田公立美術大学講師（アーツ&ルーツ専攻）。多摩美術大学芸術人類学研究所助手を経て、明治大学野生の科学研究所研究員、現職。共著・編著に『人と動物の人類学』『道具の足跡』『折形デザイン研究所の新・包結図説』『タイ・レイ・タイ・リオ紬記』等。

本稿の関連事業「知の航海」はP.52をご覧下さい。

2011年12月23日、南相馬市原町区雫　December 23, 2011. A Stray Dog, Haramachi, Minamisoma, Fukushima
銀板写真 daguerreotype　25.2×19.3cm　個人蔵　*Courtesy of Galerie Camera Obscura, Paris

新井卓　写真家

立入禁止区域の境界線上で、彼女はじっとこちらを見つめたまま動かない。白い前足をすっとのばして、端正な姿で座っている。一歩近づくと、途端に低いうなり声をあげた。わたしたちの距離は縮まりそうにない。

Minamisoma
福島・南相馬市

本稿の関連事業「写真とことば、記憶の種」はP.36をご覧下さい。

Iitate
福島・飯館村

誰もいない飯館に帰る日

安齋徹　福島から祝島へ子ども保護プロジェクトの会 副代表

*

2012/06/07

今晩は つばめ今晩も飯舘にきましたよ 飯舘は月よです
今晩も月明かりにうかぶ 家のパトロールにいきます 飯舘にはいると
人間は 人間で すみかお壊しているんですかね
人類はこの きれいな地球に生まれて あおく
きれいな 地球 日本おこはそうとしている
夜空にうかぶ 月おみながら メールお 打ってます
これから 5時間パトロール しって伊達にかいります　おやすみなさい

2012/06/12

今晩はつばめは飯舘にパトロールにきましたよ
月明かりもなく くらやみです 飯舘に 向かう途中タヌキが 二匹しんでいました
車に跳ねられたのか タヌキさんにつみはないのに 軽くブレキを踏んでくれれば
川俣お通り 飯舘にはいると住民のかいりおまつかのように 寂しくまわりお照らす 街路灯
かいりたくても かいれない 住民の皆さんの思い
飯舘住民の皆さんなら痛いほど この 辛さはわかると 思いますよ

2012/12/10

こんばんは
今日ネコ御飯ーあげに飯舘にかいりましたけど
辺りいちめんが白くおおはれ冬がきましたね
むじんの村ーむじんの家におきざりにーされた
ねこさんにはーつらい冬がきましたけど
御飯あげにかいるたびにすごくーつらいですよ
ごめんなとーこいおかけるのがーつらいです

「写真とことば、記憶の種」展で展示した、
安齋さんからの「つばめさんメール」を再掲（原文ママ）

あんざい とおる
1947年飯館村に生まれ、育つ。現在は飯館村小宮地区から伊達市内の仮設住宅に避難。長年、出稼ぎ、葉たばこ、野菜作りからグリーンツーリズム、水田耕作で生活を営む。3・11後、福島の子どもの保養プロジェクトなどさまざまな活動に参加。

Minamiizu

静岡・南伊豆町

草刈りとおばさんと夏野菜

タラスキンボンカース　デザインユニット

＊

初夏。海辺の小さな集落では、あちらこちらで草刈り機の音が聞こえてきます。草刈りは年間を通して5回ほど。ことにこの時期の草木は成長が猛烈なのです。集落の高台にポツリとある私たちの家も、山のような庭がいつの間にやらボーボーに。

朝食を済ませて、7時から2時間ほど草刈りをします。8時ころになると、私たちの家の裏手にある山の畑に、下の集落からおばさんがやってきます。

「おはようございますー」

ときどき話をしながら私たちは草刈り。おばさんは畑仕事。

「おばさん、お茶にしましょう」

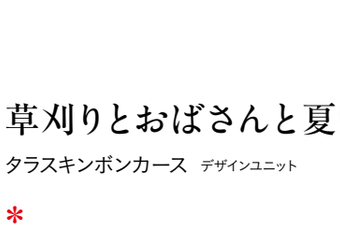
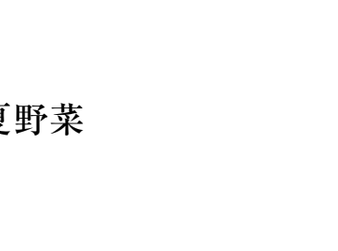
冷たい飲み物とお菓子で、一緒に休憩。私たちがこの家に暮らし始めてから、ひとりで畑にいても心強いのだと、おばさんは言ってくれます。

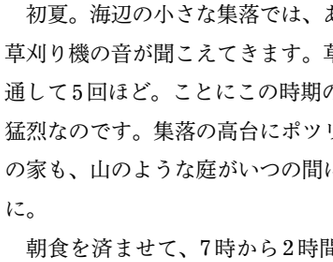
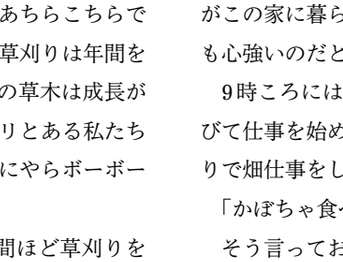
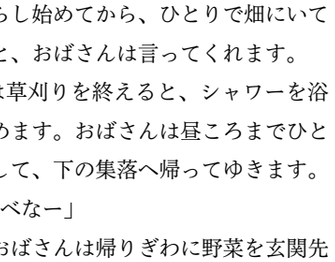
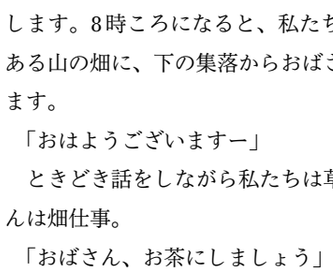
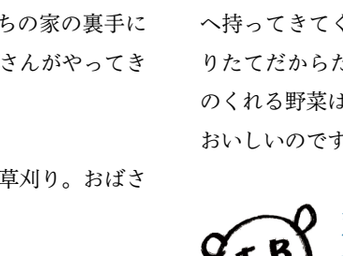
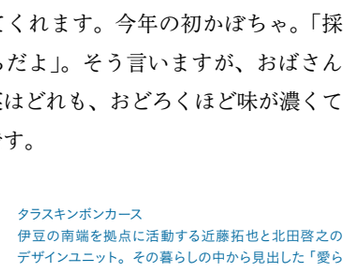
9時ころには草刈りを終えると、シャワーを浴びて仕事を始めます。おばさんは昼ころまでひとりで畑仕事をして、下の集落へ帰ってゆきます。

「かぼちゃ食べなー」

そう言っておばさんは帰りぎわに野菜を玄関先へ持ってきてくれます。今年の初かぼちゃ。「採りたてだからだよ」。そう言いますが、おばさんのくれる野菜はどれも、おどろくほど味が濃くておいしいのです。

タラスキンボンカース
伊豆の南端を拠点に活動する近藤拓也と北田啓之のデザインユニット。その暮らしの中から見出した「愛らしいモノ」「きちんと使えて嬉しいモノ」を身の回りの素材を使って、カタチにしています。

旅する生活工房
APRIL 2014 ⟶ MARCH 2015

本稿の関連事業「SUNDAY MORNING WORKSHOP」はP.49をご覧下さい。

写真：山田祥子（北海道立北方民族博物館）／2008〜2010年／ロシア連邦サハリン州ノグリキ町
本稿の関連事業「オホーツク海とウイルタのイルガ」はP.39をご覧下さい。

Sakhalin

ロシア・サハリン州

サハリンに訪れた短い夏。ウイルタの人びとが楽しみにしているのは、フレップ（ベリー）摘み。赤、紫、さまざまな色の実を摘んでは食べ、笑いあう。

おじさんたちとの“つながり”

Nishinari
大阪・西成区

原田麻以　NPO法人釜ヶ崎支援機構「ひと花プロジェクト」スタッフ

＊

朝、自転車をこいで「ひと花センターへ」。「ひと花センター」のある場所は、大阪市西成区、日本最大の日雇い労働者のまち通称「釜ヶ崎」。「ひと花センター」は孤立しがちな、地域の単身高齢生活保護受給者のつながりづくりの拠点。わたしはこの場所で「つながりづくり」の仕事をしています。

わたしがセンターへ到着すると、すでに何人かのおじさんたちが、掃除をしたり鳥に餌をあげたり、テレビを見たりして過ごしています。みなさんに「おはよう」のあいさつをし、パソコンの電源をつけ、洗たく物や掃除をしていると、テレビを見ているOさんから「まいさん、飛行機すごい勢いで落ちとるでー」とお声がかかり、テレビを眺めながらしばしおしゃべり。続々とやってくるおじさんたち。「まいさん、今日はむくんでるな」「風邪ひいとるな」などと、ちょっとした変化も見抜かれてしまいます。やってきたKさんは、きのうあった楽しいできごと、失敗したことなどを一通り報告してくれます。

朝のあいさつの後は、おじさんたちと一緒にプログラムに参加。今日はプロのダンサーさんと共に「からだとこころをほぐすワークショップ」。おじさんと一緒に鏡のように相手の動きに合わせて動いたり、ラジオ体操の音楽に集中しながら独自の振りを付けてみたりの1時間半。昼食をバタバタと食べ午後へ。今日は、ひと花センターの紹介映像をつくるために、ひと花メンバーのみなさんのお宅へ伺い、インタビュー。駆け落ち、野宿、家族との離別、職を転々とした話など、みなさんの壮大な人生物語に心揺さぶられる2時間。その後ひと花センターへ戻りイベントのための連絡調整、資料づくり、打ち合わせ……あっという間に日が暮れ、今日の記録などをつけます。パソコンとにらめっこで夜は深まり、晩ご飯どうしようかなどと考えながらヨロヨロと自転車をこいで家路につきます。

はらだ　まい
1985年東京生まれ。2009年より大阪西成にあるアートNPO法人ココルームのスタッフとして働く。2013年より現職。2014年生活工房にて「写真とことば　記憶の種　東京ー福島展」ディレクション。明治学院大学国際平和研究所研究員。

本稿の関連事業「写真とことば、記憶の種」はP.36をご覧下さい。

Romania
ルーマニア

仕事より人生！

みやこうせい　著述家／写真家

＊

偶然のことでルーマニアへ既に170回も行っている。行く内に興味が、さらに、つのり、農牧民のくらしのあらゆる瞬間を知りたくなった。ついでに副産物として、写真もとり始める。元来凝り性なので、一枚のヒツジのある瞬間の姿をとるのに五年かけたりする。

カルパチア山脈の山懐ろに抱かれた村では朝五時には起きる。あたたかにもてなす司祭の家の分厚く華やかな模様のカーペットの上で寝起きする。起きてすぐ、一家と祈りを捧げ、朝一番の地酒（二度蒸溜のプラム酒）を小グラスで一気にあおる。喉を通る妙なる芳香、胃の腑がアリアを歌い出す。身体は心地良い小宇宙となる。食事は手作りの飾りパン、ポテトが全体のマヨネーズたっぷりのサラダ、ボダイ樹の葉っぱのお茶、あるいは卵黄でくるんだチーズの揚げ物。村をとりまくのは海抜300米から400米の丘。盆地に木造の家が散在する。どの家に不意に入っても、もろ手を上げて歓迎。まずは、プラム酒が出て、くん製の豚の脂身が削られる。自家製のケーキが皿に山と盛られる。村びとは互いに仲がよい。喧嘩のたぐいはない。離婚もまずはゼロ。村の人は天と地を敬い、信心深い。よく働く。文字通り朝から暗くなるまで。この人達と深くつき合い、何冊か本を書いた。一緒に幾つもの通過儀礼に参加し、ともに泣いた、笑った、歌った、踊った。仕事よりも生活、生活よりも人生が大事。だから、ヘイ！　楽しもうという人達だ。今年も又、桃源郷の生活が始まる。

みやこうせい
著述、写真、絵本翻訳等。長年ルーマニアの民族研究に関わる。著書『マラムレシュ』（未知谷）、『ユーラシア無限軌道』（木犀社）。写真集『ルーマニア賛歌』（平凡社）他。写真集を、仏、伊、ルーマニアでも出版

旅する
APRIL 2014 ⟷ MARCH 2015
生活工房

本稿の関連事業「プナ帯☆ワンダーランド」はP.34をご覧下さい。

太陽と海、五感に響く草

かわしまよう子　花作家

＊

目が覚めるとうっすらと空が白けている。ベッドから抜けだして、靴を履く。１分ほど歩いたところに東屋があり、そこから海を見下ろすと、ゆっくりと太陽があらわれる。海が光に照らされる。輝いた道はまっすぐに伸びて、わたしの頬をあたためる。さぁ、きょう一日のはじまりだ。

太陽の光を浴びると、体の芯に力が入る。目のあう草（気になる草はこう表現）に挨拶をしながら家に戻り、顔を洗い、部屋を掃き掃除して、原稿書きをもくもくとする。息抜きの散歩コースは、その日の気分で。今日は、石積みの残る小径を通って、おいしそうな草を摘んでみる。草をサラダに加えると、五感に響くおいしさ！　遅い朝食をとり、洗濯物を干し、パソコンを開いて原稿のつづきにとりかかる。原稿を書くスピードはどうしてもゆっくりなので……時間の経つことの早いこと。

友人の家で持ち寄りごはん会があるので、冷蔵庫の中をチェックする。と、外の景色が染まってきた。沖縄の夏の夕焼けは、桃色なのだ。可愛らしい色にいてもたってもいられなくなり、靴を履き、外に出て、朝とは反対側の森のあるほうを見上げた。

かわしま　ようこ
2000年に「花だな」と思い、雑草と呼ばれる草花をとおして暮らし方や地球環境を考えるきっかけづくりをしている。著書に『草かざり』『草手帖』『道ばたに咲く』『花よ花よ』など多数。雑誌「自然栽培」などで連載中。

旅する生活工房
APRIL 2014 ⟷ MARCH 2015

Nanjo
沖縄・南城市

本稿の関連事業「時をときはなつ」はP.50をご覧下さい。

Tsukigase
奈良・月ヶ瀬

ツリー茶室にある余白

山中史郎　デザイナー

＊

僕はデザイナーと呼ばれるのが嫌だ。人に「デザイナーの山中さんです」って紹介されると何とも気恥ずかしい。おそらく世のデザイナーの中には、「えっへん。ワタクシがデザイナーです！」ってヒトもいるだろう。けれど、僕には自分が何者であるかを特定されたくない気持ちがあって、「何をしているのか分からない」と思われたいのである。

今日は自宅の大阪から車で1時間30分。奈良月ヶ瀬の茶畑に行く日。ここにはDIYで完成させた、茶畑が一望できる木の上の茶室『ツリー茶室』がある。たった2畳の茶室には、地面から延びた生木が天井まで突き抜けている。室内には畳が敷かれ、和紙を貼ってない障子は、絶妙な構図を生み出し、向かいの茶畑を美しい風景へと変えてくれる。

お茶の収穫が始まる5月から10月ぐらい迄は、茶葉を刈り取る機械の音などで、何かと騒がしい茶畑も、収穫の無い季節は、人の存在感も無く、草木のざわつきもない無音の空間へと変わる。

いつもの場所から離れ、ツリー茶室で過ごす、「余白の時間」。何も生み出していないようにも思えるこの「余白の時間」にこそ、これからの時代に必要な感覚やアイデアがあるんじゃないかと感じている。

「何をしているのか分からない」。そんな場所や時間、そしてココロの中にもそっと忍ばせて、仕事や暮らしと向き合いたいと思う。

やまなか　しろう
1974年生まれ。京都芸術短期大学映像科卒業。同校学士課程修了後、ヌーベルヴァーグに憧れ単身渡仏。2004年個人デザイン事務所ハイカルチャー設立。2011年茶畑オーナー制度 UMEZUKIにてグッドデザイン賞受賞。

本稿の関連事業「一服、日本茶、三軒茶屋」はP.37をご覧下さい

Kitami
世田谷区・喜多見

大原大次郎　グラフィックデザイナー

民話――ほたるの光で女がほる用水

その昔、田畑で使う水を多摩川から引くための工事がありました。しかし、その用水は12年経っても完成せず、奉行は腹を立てています。村の役人は奉行に恥をかかせないよう、その工事に女性も加え、さらに昼夜を問わず働くように村人に命じました。

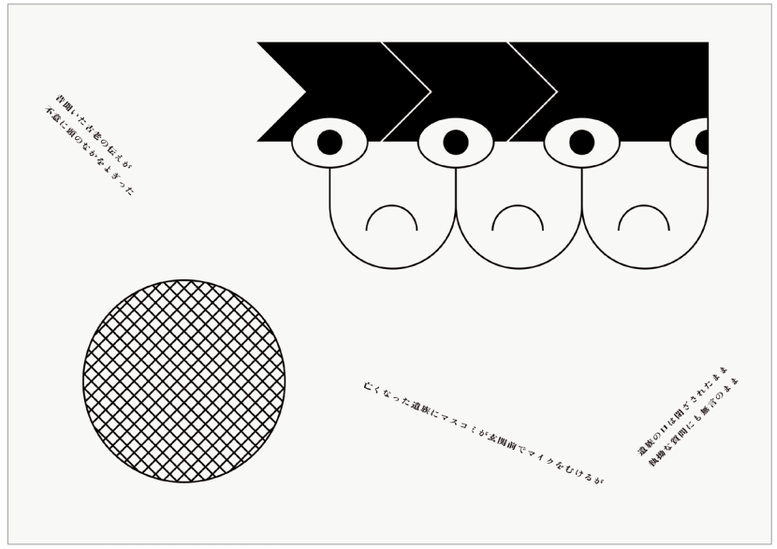
この大変な仕事に対し、村人は働く時に義太夫節（人形芝居の音楽）を歌うことの許しを得ました。すると、工事現場は男女が混じって義太夫節を歌う楽しい場に。また、誰が工夫したのか、夜になるとほたるを集め、その光で足元を照らすことで工事はとてもはかどったそうです。無事に用水は完成し、奉行も大変喜びました。

村人はこの用水を「女堀」や「義太夫堀」と呼びました。

本稿の事業「世田谷民話グラフィック」はP.38をご覧下さい。

Noge
世田谷区・野毛

菊地敦己　グラフィックデザイナー



旅する
APRIL 2014 ⟷ MARCH 2015
生活工房

民話――赤い血をふく野毛の大塚古墳

上野毛村ではある騒ぎが起きていました。

二人の青年が病気にかかり、平吉は血を吐いて死に、清助は気を病み、わめき歩く始末。「これはただごとではない」と村の世話役は、古い言い伝えを思い出し、近くの大塚古墳へ向かうと、そこで清助が唱え言をしていました。そして、その脇に空いた穴からは赤い血のようなものが流れ出ています。二人の青年は古墳を掘り返し、勾玉や黄金を盗んでいたのでした。

清助は盗んだものを返しましたが、血は止まりません。世話役が土で埋めるとようやく穴はふさがりましたが、さっきまでいた清助がいなくなっています。世話役が村へ帰ると、清助の母がやってきて伝えました。

「息子が血を吐いて死んだ」と。

Umegaoka

世田谷区・梅丘

自然派ワインに魅せられて

沼田利也　「リカーランドなかます」店長

＊

当店は小田急線梅ヶ丘駅の開設年（1934年）に祖父が創業、私が3代目です。90年代に出会った自然派ワイン達に魅せられ、2011年8月に長年の構想だった店舗改装を行い、ワインセラー環境を充実させた現在のスタイルに至りました。

仕事は午前9時半から、メール等の業務連絡確認や店内業務などを行い正午に開店。商品の到着は午後。農薬・殺虫剤・合成肥料などケミカルな要素を排除して健全に育てた葡萄を最低限の醸造介入や保存処理で造る……デリケートな性質上、温湿度の環境保全が重要な自然派ワインはリーファー便（摂氏15℃定温トラック）で届き、冬季以外は直接ワインセラー（摂氏12～13℃、湿度80％）へ搬入、セラー内で一本ずつ手に取り、状態をチェックしながら商品説明を添えて袋詰め作業。その間、レジの販売業務、ご来店されるお客さまの接客やご相談を承ります。

初めて出会った自然派は、第二次大戦後に発達した肥料・農薬・バイオテクノロジーを排除し、それ以前の“何も足さない、何も引かない”純粋無垢なワイン造りを実践したティエリー・ピュズラ氏のワイン達。まずは何と言っても、我々日本人の味覚に響く「旨味」豊かな味わいと、その美味しさにビックリ！　そして……栽培・醸造方法、生産者の人柄や思い、多様性やオリジナリティ、サスティナブル性など、知れば知るほどその魅力に惹かれ、自分のワイン観や店のスタイルも変わって行きました。

ぬまた　としや
1934年に創業した酒販店「リカーランドなかます」の3代目。90年代に自然派ワインと出会い、魅せられ、次第に自然派ワイン中心の運営に。2011年8月、長年の構想だった店舗改装を行い、セラー環境を充実。

写真：佐藤基

旅する
APRIL 2014 ⟷ MARCH 2015
生活工房

本稿の関連事業「SUNDAY MORNING WORKSHOP」はP.49をご覧下さい。

写真：あらいひろし

Taishido

世田谷区・太子堂

市民活動の日々

山崎努　市民活動支援コーナー／IVUSA

＊

「市民活動支援コーナー」は、世田谷区内で活動を展開している市民活動団体に、会議スペースや印刷機材の貸し出しをおこなっています。

8時30分。パチっと電気がついて、ブィーンと掃除がはじまります。スタッフが、レジ、備品の安全点検、当日予約状況などの確認をし、9時開館に向けて準備をはじめます。

4つの会議スペースでは、それぞれの利用目的に合わせ各団体さんが会場を設営し、ホワイトボードやプロジェクターを使って活動をおこないます。各スペースからは、笑い声や、話し声が聞こえ、和やかな雰囲気です。開館後は、入口側のフリースペースも、チラシラックに置いてあるチラシを読む方、赤ちゃんを連れた方、読書・勉強をする方、休憩する方、コピー機を利用する方など、幅広い年齢層の方々が来館されます。

プリントアウトスペースでは、印刷機を使って、チラシの印刷や、プリントアウト専用パソコンを使用して、資料ポスター等を作成し、レーザープリンター、大判プリンターで出力をします。館内、近隣施設、区内イベントについてお問い合わせの対応や、消耗品の補充と受注発注確認、新規登録団体受付もおこなっております。

閉館時間前に忘れ物チェックをし、21時に閉館します。

やまざき　つとむ
1979年大阪生まれ。大学生が途上国支援や災害救援活動を行うIVUSAに11年勤続し、市民活動支援コーナーの運営も受付に座って8年半になる。管理運営業務の傍らパソコン教室なども開催している。

本稿の関連事業「市民活動支援コーナー」はP.59をご覧下さい

写真：永峰拓也

Shoinjinjamae

世田谷区・松陰神社前

ローカルなあたたかさ

平松朋子　フラワースタイリスト

＊

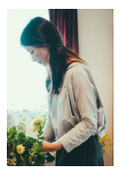
松陰神社に引っ越してきて1年半。最初に行ったお店はおでんの「おがわ屋」でした。店先で話す声、作る音、おいしい匂いがまざりながら買い物をする楽しさ。何度おでんをつくり、そのおでんが人を呼び、人がまたこの街を知ったことか。

ふらふらと、松陰神社商店街を歩くとこうゆう店にあたります。一度食べたら忘れられない「メルシーベイク」のガトーショコラに。スーパーにはない新鮮なお肉を買いに「肉の染屋」に。古本を立ち読みしつつ、店主と話しに古書「nostos books」に。自然発生的に生まれる人との会話やつながり。この街は人との距離が近くローカルなあたたかさがあります。

人がいて、音があり、匂いのする商店街。

暮らしの情報交換をしたり、美味しい料理を教えてもらったり、今度こんなイベントがあるよっとお誘いしてもらったり。たまーに仕事につながることもあって。毎週、お店にお花を活けに行っていたり、イベントのシーズンに装飾をしたり、店前の植栽をしたり。お花を持って商店街をうろうろすることもしばしば。

フラワースタイリストとしての自分の活動もこの街に影響され、日々続いているように思います。この街で生きる楽しさ。おもしろくって、心地よいと感じることを大切にしていきたいと思います。



ひらまつ　ともこ
京都の自然あふれる田園に育ち幼い頃から日々の暮らしの中に植物があふれていた。上京後、東京のローカルな雰囲気ただよう世田谷、松陰神社前を拠点に暮らしに寄り添う花を提案している。定期的にゆかりのある京都にて花の活動をおこなう。

旅する生活工房
APRIL 2014 ⟷ MARCH 2015

本稿の関連事業「SUNDAY MORNING WORKSHOP」はP.49をご覧下さい。

写真：永峰拓也

Matsubara

世田谷区・松原

受け継いだ紳士服店

並木久美子　「洋服の並木」

＊

5時30分アラームと共に一日が始まる。

仏壇へ水とご飯を供え、「今日も一日頑張りますね」と亡夫に線香を上げる。次に猫のごはんを用意。11歳の家猫はまだ寝ている。家族の朝食、昼食のお弁当、夕食の用意、洗濯、朝の一連の作業を終え、8時前後には目と鼻の先の店へ出勤。開店前の準備、宅配物の受け取り、コーヒーを飲みながら伝票の整理などが日課となっている。

この地にオーダー紳士服店を構えて40年近く、探究心旺盛の亡夫のともすると採算度外視で来店客の要望を叶えようとする姿勢が、若者たちに喜ばれ、口コミで顧客が増えた。受け継いだ当初、その期待を裏切らないようにするのが、使命とばかり力量を超えて頑張ったが、疲れが増大するばかりで空回りしそうになった。そのため、最近は肩の力を抜き、お客様との会話を楽しみながら出来る範囲で要望を聞くように心がけている。仕上がりをお客様に喜んで頂け、「また作りに来ます」と言われることが、一番嬉しい。

帰宅時に星空を見上るとホッとする。夕食後、明日の準備をし、入浴をするともう日付が変わっている。夫の急死から半年後、10年介護した実母も逝き、寂しくも解放された深夜を満喫している。

なみき　くみこ
梅ヶ丘でオーダー紳士服店を営む。世田谷生まれの世田谷育ち、在住歴は半世紀を超える。音楽、動物、映画、読書、スポーツ観戦をこよなく愛す。

本稿の関連事業「モッズスーツと洋服の並木」はP.41をご覧下さい

人類のグレートジャーニーすごろく

大陸移動はとっても大変！　きみはどこまで行けるかな？

START

・⚀⚁⚂⚃⚄⚅ サイコロを振って、出た目の数、進めるよ！
・**STOP** のコマで一度とまり、次の回でサイコロを振って進む方向を決めるよ。すぐにもう一度サイコロを振って出た目の数を進もう！
・黄色のマス ◯ が、定住先。そのマスにちょうどとまったら、そこに定住するよ！
・黄色のマス ◯ に着いても、そこに定住したくなかったら、旅を続けてね！

「プナ帯☆ワンダーランド」展会場に設置されていた、人類の足跡をたどるすごろくゲーム。
デザイン：小板橋基希（アカオニデザイン）　イラスト：100%ORANGE

旅する生活工房 APRIL 2014 ⟷ MARCH 2015

約20万年前、南東アフリカで誕生した現生人類は、6－10万年前にアフリカの外へ旅立った。最初に新天地に向けて出発した集団は、わずか150人だったという。すでに出アフリカを果たしていた原人との攻防、気候の急激な変動などさまざまな障壁があったはずだが、12,000年前には南米の南端にまでたどり着く。最後に人類がたどりついたのはニュージーランドで、わずか800年前というから、なんと長い旅だったことか。

旅に出たい――そんな気がする時は、グレートジャーニーを成し遂げたDNAが、うずいているのかもしれない。

Taishido
世田谷区・太子堂

展示、ワークショップ、市民活動、施設利用……

生活工房の1日

08:30　今日も生活工房の仕事がはじまります。

09:00　本日の施設利用開始時間です。セミナールームとワークショップルーム、市民活動支援コーナーは区民の活動にも、生活工房の事業にも使用しています。今日は生活工房の展示事業の設営作業。開催まであと2日。展示品を運んだりパネルを作ったり大忙しです。作業は熱気を帯びてきます。

10:00　3か月後にせまった夏の子どもワークショップの詳細打ち合わせで講師とのクリエイティブな話し合いがスタートしました。モノづくりを体感できる空間づくりと、材料を選んで調整をしていきます。

11:00　朝から電話の問い合わせが多いなあと思ったら、開催間近の展覧会情報が新聞に掲載されたのです。担当以外の職員も協力して対応します。

14:00　今日は月に2回の部内ミーティング。進行中の企画の報告や施設管理についても様々な課題や注意事項が報告されます。そして、次年度の企画についても話し合います。生活工房はほとんど全てがオリジナル企画。担当者からの提案を基にあれやこれやと意見を出して絞り込んでいきます。

16:00　部内会議が終わると今度はホームページ担当の打ち合わせ。

17:00　セミナールームの利用を終えた団体さんが窓口に。受付職員が確認を終えると、今度は清掃担当者が部屋をきれいにしてくれます。

20:00　生活工房ギャラリーはまだまだ準備中。通りすがりの人が、ガラス越しに準備の様子をのぞいています。

21:00　市民活動支援コーナーの終了時間です。今日もたくさんの活動団体さんが様々な集まりに使ってくださいました。お疲れ様。

22:00　セミナールーム等のご利用終了時刻です。利用者さんのお忘れ物がないか確認して、施錠。事務所を消灯して、受付職員も退出します。

さあ、また明日8時30分から業務がスタートします。

There are four different zones at Seikatsu-Kobo. The Gallery wide open with glass window is one of the most popular place for many visitors here. And on the same floor, there is Local Citizen's Activity Space where small groups are actively holding their programs. Going up stairs from there, Workshop Rooms are available for your art works exhibitions or maybe good for gathering with cooking, and Seminar Rooms are useful for meetings.

Our day goes just like this...

At 8:30 office door opens and at 9:00 the facility is ready for the users.

We use the facility for our program, too. Sometimes we are busy preparing for the coming exhibition, staff members in charge are coming and going to put items and checking the panels and so on. Some are in the meeting of workshop programs for children with professionals. Twice a month, all the staff members are get together to exchange information of each programs and also discussing programs for next year.

At 20:00 we close the gallery and at 21:00 Local Citizen's Activity Space is closing.

And at 22:00 the very last users are rushing to the reception to inform they are ready to leave. A little after 22:00, it is time to go home, turn off the office lights and we will start again tomorrow!

旅する
APRIL 2014 ⟶ MARCH 2015
生活工房

世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center

世田谷文化生活情報センターに1997年オープン。日常の暮らしの中にあるモノだけでなく様々な事柄に着目し、デザイン・文化・環境といった視点からアプローチし、展覧会やワークショップ、セミナーなど多様なプログラムを実施しています。

展示の設営風景

上：市民活動支援コーナー　中：部内ミーティングの様子
下：生活工房の施設利用の窓口となる受付

CONTENTS

2 旅する生活工房

北海道・白糠町
カナダ・ユーコン準州
宮城・唐桑町
ペルー・リマ
秋田・秋田市
パレスチナ・ラーマッラー
福島・飯館村
福島・南相馬市
ロシア・サハリン州
静岡・南伊豆町
ルーマニア
大阪・西成区
奈良・月ヶ瀬
沖縄・南城市
世田谷区・野毛
世田谷区・喜多見
世田谷区・太子堂
世田谷区・梅丘
世田谷区・松原
世田谷区・松陰神社前

26 人類のグレート・ジャーニー
28 生活工房の1日
30 生活工房の事業

Exhibition 展覧会 事業報告

34 ブナ帯☆ワンダーランド
35 DAYS JAPAN写真展2014 地球の上に生きる
36 写真とことば、記憶の種 福島―東京
37 一服、日本茶、三軒茶屋
38 世田谷民話グラフィック展
39 7つの海と手しごと《第5の海》「オホーツク海とウイルタのイルガ」
40 眞田岳彦ディレクション 「羊と手―衣服と作り手、その生き方」
41 世田産―setasan セタガヤ デザインPROJECT
42 モッズスーツと洋服の並木

Workshop ワークショップ 事業報告

44 くらし・うるし・研究室
45 夏のNEWSなアニメーション!
46 14歳のワンピース
47 分解ワークショップ 家電製品の仕組みを探ろう!
48 中学生プラグインハイブリッド教室 次世代車を組み立てよう!
49 SUNDAY MORNING WORKSHOP
50 時をときはなつ

Seminar / Event セミナー／イベント 事業報告

52 知の航海
53 JAPONDER 2014 Fusion Peru―留学生に聞く、ペルー共和国のこと。
54 朗読講座 豊かなことばの世界

Local Community 地域と市民活動 事業報告

56 世田谷アートフリマ
57 おはなしいっぱい
58 NPO・市民活動のための「物語」のつくり方講座
59 市民活動支援コーナー／第4回世田谷区芸術アワード“飛翔”
60 国際交流inせたがや2015／世田谷市民活動支援会議
61 ギャラリーカフェくりっく／レリーフジオラマ

62 生活工房施設ガイド
64 生活工房データベース
65 つぶやきからみる生活工房
66 生活工房のフライヤー
72 協力先一覧

「展覧会」「ワークショップ」「セミナー／イベント」「地域と市民活動」の
4つの事業を主として生活工房は運営されています。

Lifestyle Design Center provides four main figures of programs:
Exhibition, Workshop, Seminar / Event and Local Community.

生活工房の事業 Our Program

社会を知る、学びを楽しむ

セミナー／イベント
Seminar / Event

専門家やクリエイターを招き、暮らしや文化に関する生きた言葉に触れるさまざまな講演やトークイベントを実施しています。

Wide-ranging program of seminars and events for adults brings the academic field and creative world of design into our everyday life.

新たな発見が暮らしを彩る

展覧会
Exhibition

生活工房ギャラリーやワークショップルームでは、デザインやクラフト、異文化など多角的なテーマで展示を実施しています。

We are pioneering program of creative world of various designs, arts & crafts and intercultural experience into everyday life which will offer new and different view and value to share.

地域とつながる

地域と市民活動
Local Community

地域の活動と交流を支援し、多様な価値観や共感の輪を広げ、ネットワークを構築し豊かな地域づくりのお手伝いをしています。

Operating activity space and supporting programs for non-profit organizations, we encourage local citizens' networking with various people and exchange ideas for developing sustainable society.

多彩なモノづくりを楽しむ

ワークショップ
Workshop

参加者が手や体を動かしながら「考え」「つくる」ワークショップでは、子どもから大人までが楽しめる多彩なプログラムを実施しています。

Our design and creativity workshops for all ages offer fun and inspiring time to experience. In cooperation with exterior venue of specific function strengthen some of the programs.

展覧会

事業報告

EXHIBITION

P.34 へつづく

マンガ：100% ORANGE

ブナの森に季節の兆しを見つけにいこう

美しい四季のある落葉広葉樹林帯「ブナ帯」は、東アジア・ヨーロッパ北西部・アメリカ北東部に分布し、世界三大ブナ帯と呼ばれている。その中でも東日本は最大のブナ原生林を有し、そこには今も、日本の基層文化を成す狩猟採集の暮らしが息づいている。

パテ屋／〈食〉研究工房を主宰する林のり子氏と仲間たちは、1980年代から東日本のブナ帯地方をフィールドワークし、世界のブナ帯との共通点をさぐっている。この展覧会では、その長年にわたる資料と、ブナ帯に生きる人々の言葉・詩・写真・映像・インスタレーション作品などを織り交ぜてワンダーランド空間を作りあげた。幼児から大人まで、展示空間をさまよいながら、言葉の前に立ち止まり、映像に見入り、四季の森を存分に味わっていた。

関連イベントでは、ブナの森と海の連環を食で感じるワークショップ、ヨーロッパブナ帯の暮らしを聴くトークイベント、ドキュメンタリー上映会も行い、世界のブナ帯文化に深く浸った。

ブナ帯（たい）☆ワンダーランド

DATA

開催日時 2015年2月27日㈮〜3月16日㈪ 11:00〜19:00（最終日は17:00まで） 会場 生活工房ギャラリー、ワークショップルームAB 来場人数 5,990名 特別協力 パテ屋・〈食〉研究工房、ブナ帯☆ワンダーランドの会 展示協力 （公財）味の素食文化センター、上平晃代、太田威、大西暢夫、中里洋介、馬喰町ART+EAT、ハセ川はく製、八幡平の葛根田ブナ原生林を守る会、日知舎、100%ORANGE、plaplax、（株）まちづくりカンパニー、（一社）民族文化映像研究所 助成 一般財団法人地球産業文化研究所 後援 在日スイス大使館

関連企画

食のワークショップ「山あそび」
開催日時 3月3日㈫ 11:00〜14:30 会場 ワークショップルームA（展示会場内） ゲスト 成瀬正憲（日知舎）、中山晴奈（NPOフードデザイナーズネットワーク） 参加人数 20名 参加費 2,000円

「林のり子と清水ミチコのおはなしの森」
開催日時 3月6日㈮ 19:00〜20:30 会場 ワークショップルームA（展示会場内） ゲスト 清水ミチコ（タレント）、林のり子（パテ屋） 参加人数 35名 参加費 2,000円

トークイベント「ルーマニア―中世の化石」
開催日時 3月14日㈯ 15:00〜17:00 会場 セミナールームAB ゲスト みやこうせい（著述・フォトアーティスト・絵本翻訳）、林のり子（パテ屋） 参加人数 85名 参加費 500円

食のワークショップ「磯あそび」
開催日時 3月15日㈰ 11:00〜14:30 会場 ワークショップルームA（展示会場内） ゲスト 熊谷典子、犀川ゆかり、畠山恵満、藤原理恵（唐桑食の学校）、中山晴奈（NPOフードデザイナーズネットワーク） 参加人数 19名 参加費 2,000円

ドキュメンタリー上映会『越後奥三面　山に生かされた日々』
開催日時 3月8日㈰ 14:00〜16:30 会場 セミナールームAB 参加人数 30名 参加費 800円

雪の森のおはなし会
開催日時 3月7日㈯・14日㈯ 各日11:00〜12:00 会場 展示会場内 出演・協力 世田谷おはなしネットワーク 参加人数 25名 参加費 無料

上映会「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ―雪国の暮らし」
開催日時 2月5日㈭ 18:30開場 19:00開演 会場 Space & Cafeポレポレ坐（東京・東中野） ゲスト 本橋成一（映画監督）・林のり子（パテ屋） 参加人数 50名

巡回展

「ブナ帯☆ワンダーランド」展
開催日時 3月20日㈮〜25日㈬ 月曜休館・入場無料 会場 鶴岡アートフォーラム 来場人数 419名

展示＆ワークショップ「唐桑食の学校2015」
開催日時 3月8日㈰ 会場 宮城県気仙沼市唐桑町 参加者数 10名

1 巨大イノシシと鮮やかな秋、ワンダーランドへようこそ！ 2 ブナ帯の冬は白銀世界

60代男性
思想を見えるような形にするという
難しい仕事に取り組んで成功している。

人類の旅とブナ帯との出会いのすごろくゲーム

DAYS JAPAN写真展　地球の上に生きる

世界の未来をつくるために

日本、そして世田谷も世界とつながっている

フォトジャーナリズム月刊誌『DAYS JAPAN』が主催した「第10回DAYS国際フォトジャーナリズム大賞」。受賞作品と講演いただいた広河隆一氏の発言を深めた。

「シリア内戦」、「インド反原発運動」をはじめ、国内外のフォトジャーナリストがレンズ越しに見た世界は紛れもない現実であり、同じ時代を生きる私たちに、世界の行く末を問いかけてくるようだ。

また、体験セミナー「食とお酒から知るパレスチナ」では、空爆や不条理な暴力に直面しているパレスチナが抱える問題とともに、日常的な食文化にも焦点をあて、その豊かな国民性についても理解を深めた。

世界に広がる厳しい現状に対して、私たちは何を考えて、何をすべきなのか？　その解答は簡単に見いだせないとしても、こうした写真展やイベントを通じて、日本、そして世界中が直面している問題と少しでも向き合い、私たちが一歩でも前に踏み出すきっかけになることを願っている。

10代学生の声
誰もが口にする「正義」、
本当は何なのだろうと
考えさせられました。

1 トークイベント：広河隆一氏（フォトジャーナリスト、DAYS JAPAN前編集長） 2 第10回DAYS国際フォトジャーナリズム大賞3位「ガザに生きる子どもたち」photo by アリ・ヌールディーン（EPA） 3 第10回DAYS国際フォトジャーナリズム大賞1位「シリア内戦」photo by ニクラス・ハマーストレーム（Kontinent）

DATA

開催日時 2014年11月28日㈮〜12月15日㈪ 11:00〜19:00 会場 ワークショップルームB 来場人数 1,653名 共催 株式会社デイズジャパン 企画 株式会社世田谷社

関連企画

トークイベント「ジャーナリストの視点から」
開催日時 11月29日㈯14:00〜16:00 会場 ワークショップルームA 参加人数 62名 参加費 500円

体験セミナー「食とお酒から知るパレスチナ」
開催日時 12月7日㈰16:00〜19:00 会場 ワークショップルームA 参加人数 36名 参加費 800円（20歳未満および酒類の試飲をしない方は500円）

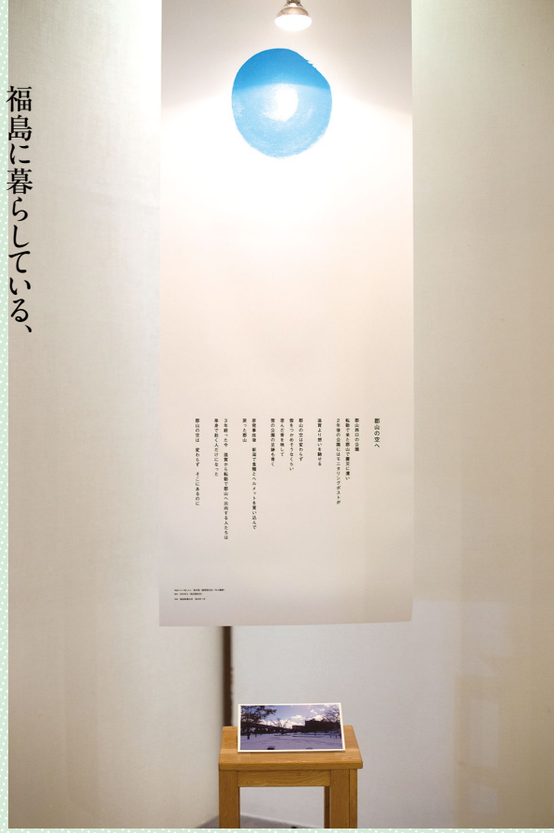
写真展会場

福島に暮らしている、暮らしていた人の声に、耳をすます

東日本大震災から時が経つにつれ、減る一方の報道。たまに原発事故処理について報じられるが、福島の人の声はなかなか聞こえてこない。「絆」「反原発」「復興」「がんばろう」――大きな声にかき消されてしまう、人々の声はどんなものなのか。本展は、その声に耳をすますために企画された。

福島の人が持ち寄った写真は、震災前の風景もあれば、震災後の風景もある。村の祭りの写真、きれいな虹の写真、津波が襲った浜辺の写真……。その写真について、写真を持ってきた人とは別の人が聞き取りをし、内容を詩にしていく。東京と福島でおこなった3回のワークショップから生まれた17篇の詩を、写真とともに展示した。

展示されている写真とことばにあらわれている生活は、私たちの生活そのものだ。これは離れた場所で起こった3年前のことではなく、「今・ここ」の話である。私たちが今後どのようにこの現実に心を寄せていくのか、あらためて見つめなおす機会となった。



作品に近づくとライトが灯る。まるで語り出すかのよう

写真とことば、記憶の種

福島――東京

DATA

開催日時 2014年5月23日㈮～6月8日㈰ 11:00～19:00　会場 ワークショップルームB　来場人数 1,403名　企画／運営 NPO法人こえとことばとこころの部屋 東北プロジェクト、ふくしまのいどばたから写真展実行委員会　ディレクション 新井卓、原田麻以　アートディレクション 上浦智宏（ubusuna）　展示会場撮影 新井卓

同時開催

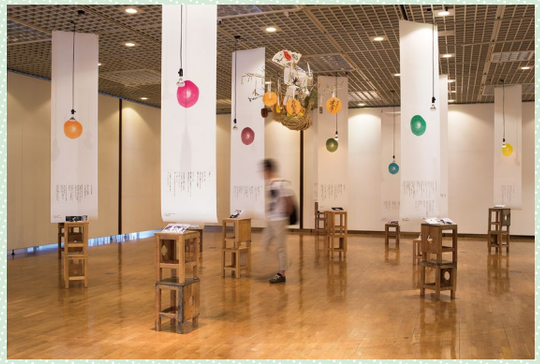
「写真とことば、記憶の編み方」
開催日時 5月23日㈮～6月8日㈰9:00～20:00　会場 生活工房ギャラリー　出品作家 新井卓、村越としや、LOST&FOUND PROJECT（高橋宗正）、鷲尾和彦、Thomas Neumann

関連企画

ワークショップ「こころのたねとして 福島―東京」
開催日時 5月24日㈯14:00～16:00　会場 ワークショップルームA　講師 上田假奈代（詩人）　対象 小学5年生～一般　参加人数 8名　参加費 200円（お茶つき）

トークセッション「今、出逢いたい」
開催日時 5月25日㈰13:00～18:30　会場 ワークショップルームA　講師 栗原彬（政治社会学者）、安齋徹（福島から）、新井卓（写真家）、鷲尾和彦（写真家）、猪瀬浩平（文化人類学者）、佐川美佳子・阿部久美子（福島から）、上田假奈代（詩人）、桑原滝弥（詩人）　参加人数 41名　参加費 300円（お茶つき）

シンポジウム「みんな〈なんみん〉になるときに」
開催日時 5月31日㈯13:00～17:30　会場 ワークショップルームA　講師 宗田勝也（難民ナウ！代表）、市澤秀耕・岡本易（福島から）、栗原彬（政治社会学者）　参加人数 35名　参加費 300円（お茶つき）



上 4階には福島の人たちによる写真と、詩　**下** 3階では、写真家それぞれの福島とのかかわり方を展示した

60代女性の声
被災者というイメージではなく、
人の日々の時間がそこにあった。

一服、日本茶、三軒茶屋

三軒の茶屋があった地で、日本茶の未来を考える

お茶の子さいさい、茶々を入れる、お茶をにごす……。慣用句が多いのは、それだけお茶が私たちの生活に身近である証（まさに日常茶飯事）だが、近年はペットボトルなどで飲む機会が増えている。急須を使ったことがない若い人も多く、「茶柱が立つ」ことは、昔以上に希少な現象といえる。

ペットボトルは一人で飲むが、お茶はもともと「みんなで飲む」ものだった。秀吉は出陣前に士気を高めるため武将たちに大茶碗で回し飲みをさせた。開港を迫ったペリーにお茶を出すと、「開港後はこれを輸出したらいい」というほど気に入ったという。1300年前に中国から伝わり、飲む人の心を解きほぐしてきたお茶。お茶という存在を見つめ直すことは、お茶が育んできた日本の心を見つめ直すことにもなる。

本展では、お茶の歴史や、茶葉・産地ごとの違いから、日本茶をめぐる新しい動きまでを紹介。江戸時代、三軒のお茶屋があったこの三軒茶屋で、お茶の過去・現在・未来を旅する構成とした。

1 茶摘み娘が出迎える会場風景　**2** 日本茶の未来を熱く討論　**3** 新茶の葉をもみ、手もみ茶に仕上げる

DATA

開催日時 2014年4月25日㈮～5月18日㈰ 9:00～20:00　会場 生活工房ギャラリー　来場人数 4,666名　企画制作 パレットデザイン　資料協力 佐々木製茶、伊藤園、公益社団法人日本茶業中央会

関連企画

茶飲み座談会「日本茶の未来をかたろう」
開催日時 5月10日㈯ 14:00～16:00　会場 ワークショップルームA　講師 ステファン・ダントン（吉祥寺「おちゃらか」店主）、矢部亨（宮城・塩釜「矢部園茶舗」代表取締役）、丸谷誠慶（石川・加賀「丸八製茶場」代表取締役）、山中史郎（奈良・月ヶ瀬「茶園 UMEZUKI」企画・デザイン担当／hiculture代表）　参加人数 50名　参加費 500円（日本茶飲み比べセットつき）

ワークショップ「手もみで闘茶！in三軒茶屋」
開催日時 5月11日㈰ 14:00～16:30　会場 ワークショップルームA　協力 タツミ茶園　参加人数 18名　参加費 1,000円

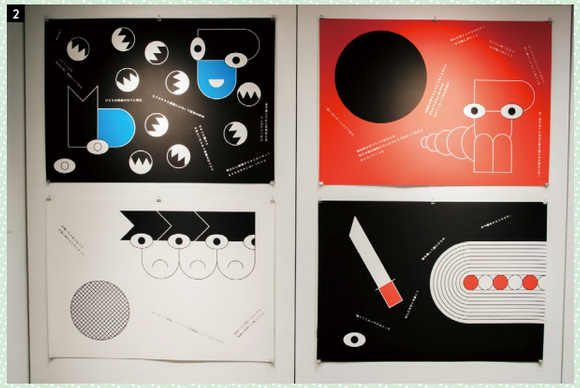
80代男性の声
番茶から抹茶まで
80年飲んできましたが、
展示は大変勉強になりました。

グラフィックとラップで民話

世田谷区の民話といえば豪徳寺の『招き猫』が広く知られるが、区内にはその他にも多くの民話が残されている。それらは先人たちの風習や信仰、道徳観を現代に伝えるメディアであり、舞台となった史跡や寺社は、今なお私たちの暮らす地域に残されている。

本展はグラフィックデザイナーの菊地敦己氏と大原大次郎氏、ミュージシャンのイルリメ氏が、地域に眠る民話をグラフィックとラップで再生することで、身近な街の由来や歴史に触れてもらう機会とした。菊地氏は5世紀に築造された野毛大塚山古墳の怪奇譚『赤い血をふく野毛の大塚古墳』、大原氏は江戸時代に作られた六郷用水の誕生秘話『ほたるの光で女がほる用水』という夏休みらしい〝涼〟を感じる2編が選ばれ、イルリメ氏はその物語をラップに乗せた。

その斬新な表現は、来場者に驚きを与えると同時に、民話への理解や興味を深めることができた。また常設したスタンプのワークショップも好評だった。



1 鮮やかなグラフィックがガラス越しにも目を引いた　2 菊地による『赤い血をふく野毛の大塚古墳』　3 大原による『ほたるの光で女がほる用水』　4 区内に点在する民話をマッピング

世田谷民話 グラフィック展

DATA

開催日時　2014年7月18日㊎〜8月31日㊐9:00〜20:00　会場　生活工房ギャラリー　来場人数　12,676名　展示制作　菊地敦己、大原大次郎、イルリメ

関連企画

夏の子どもワークショップ「オリジナルスタンプで本をつくろう！」
開催日時　8月9日㊏ 10:00〜12:00　講師　菊地敦己、大原大次郎　対象　小学1〜6年生　参加人数　50名　参加費　1,000円（材料費込）

30代女性の声
今まで知らなかった
地域の歴史に興味を持った。

右 季節ごとに衣服や生活道具を展示　左 色とりどりの糸で施されたウイルタ刺繍

7つの海と手しごと《第5の海》

オホーツク海とウイルタのイルガ

北方の世界に刻まれた、文様をたどる旅

サハリン島の少数民族・ウイルタは、トナカイを飼い育てながら季節ごとに住居を移し、獣や魚を獲って暮らしてきた。日露戦争後、サハリンの北緯50度以南が日本領（樺太）となり、ウイルタは定住生活を送ることになる。第二次世界大戦後は、オホーツク海をわたって北海道・網走に移住したウイルタもおり、サハリンでは現在約300人が暮らしている。

ウイルタに伝わる伝統的な文様「イルガ」は、渦巻きやハート形に見えるパターンが特徴的。衣服やバッグなどの布製品だけでなく、木製の食器などにも文様が施されている。かつてはアザラシなどの毛皮に身を包み、めぐる季節とともにトナカイを連れ、海と山とを移動しながら暮らしていた民。その手工芸品からは、環境の変化にやわらかに順応していくウイルタの生活の智恵が感じられる。

本展では、北海道立北方民族博物館が所蔵するイルガが施された手工芸品や映像を展示し、ウイルタの手しごとと生活を紹介した。

DATA

開催日時　2014年10月4日㊏〜11月3日㊊㊗ 9:00〜20:00　会場　生活工房ギャラリー　来場人数　7,833名　特別協力　北海道立北方民族博物館　協力　セセン設計所、フレップ会、大広民芸店、世田谷文学館　映像協力　（財）宮本記念財団、ヴィジュアルフォークロア　イラスト　塩川いづみ　デザイン　大西隆介（direction Q）　展示会場撮影　栗原諭

関連企画

上映＆講演会「網走に暮らしたウイルタ」
開催日時　10月13日㊊㊗ 10:30〜12:30　会場　セミナールームAB　講師　笹倉いる美（北海道立北方民族博物館学芸主幹）　参加人数　44名　参加費　700円（ロシアの紅茶とお菓子つき）

記録映像上映「サハリンのウイルタを訪ねて」
開催日時　10月25日㊏ 1日3回上映12:00〜12:50／14:00〜14:50／16:00〜16:50　会場　ワークショップルームB　参加人数　75名　参加費　無料

講習会「ウイルタ刺繍のコースター／オーナメント」
開催日時　11月1日㊏ 13:00〜16:00　会場　ワークショップルームA　講師　ウイルタ刺繍サークル　フレップ会　参加人数　20名　参加費　2,000円（材料費込み）

20代女性の声
ただ「かわいい」だけではない、
生々しい「生」を感じた。

世田谷の工場×女子大生によるプロダクト

昨年度「第3回世田谷区芸術アワード“飛翔”」《生活デザイン部門》を受賞した『渋産－shibusan』プロジェクト。今年は新たに『世田産－セタガヤ デザインPROJECT』として展開された。このプロジェクトは、昭和女子大学・橘研究室が、世田谷区内の工場とともに行っている活動。ものづくりの「楽しさ」「面白さ」を伝えていくことを目的に、地域に散在する職人の技術のリサーチしながら、学生たちが自由な発想から新しいデザインを表現する試みである。

今回の作品展では、アクリル、ブリキ、合成樹脂、特殊印刷を扱う会社や工場に協力いただき、学生とのコラボレーションが実現した。

素材の透明感を活かして美しく仕上げたアクリル玩具をはじめ、特殊印刷のスクラッチを用いたアクセサリー、合成樹脂で真空成形した作品をそのまま展示什器として使用するなどのアイディアも学生らしく面白い。まさに職人の技術を纏った新しい発想力が楽しめる作品展となった。

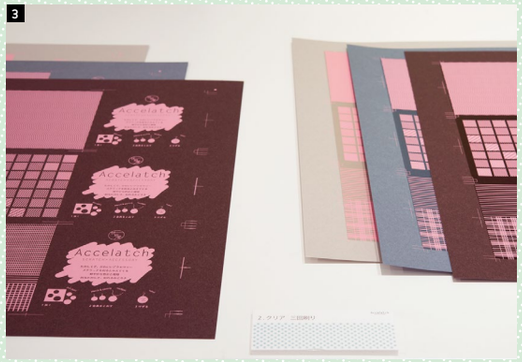
20代女性の声
プロダクトの「技術」と
「楽しさ」両方が伝わりました。

DATA

開催日時　2014年9月6日㈯～9月28日㈰9:00～20:00
会場　生活工房ギャラリー　来場人数　3,917名　企画制作　橘倫央＋昭和女子大学 橘研究室　協力　有限会社相川合成樹脂工業所、宇田川プリキ店、有限会社繁岡美術、株式会社友成工芸　後援　昭和女子現代ビジネス研究所 昭和デザインオフィス

世田産（セタサン）――セタガヤ デザインPROJECT

1 展示方法にも学生たちのアイディアを活かして会場構成　**2** 色調もキレイで人気だったアクリル玩具　**3** 作品完成までの工程も版下や道具などで紹介　**4** 素材を楽しみデザインされたアクセサリーなどが並ぶ



1 展覧会場　**2** 羊をかぶるマーケット／若手デザイナーの作品が並ぶ　**3** ワークショップ／稲藁と羊毛でつくる“未年”の正月飾り　**4** トークイベント／眞田岳彦氏（右）とゲストの渡辺新氏

40代女性の声
日本の羊毛とは？　普段使用しているのに、
初めて考えました。

眞田岳彦ディレクション

羊と手――衣服と作り手、その生き方

日本の羊毛文化を訪ねて

羊をめぐる日本の作り手たちの仕事から「本当の豊かさ」を考察した企画展。

衣服造形家・眞田岳彦氏が、北海道の牧羊、愛知の紡績、岩手のホームスパン（手織り布）、京都の手芸メーカーといった日本各地の羊毛に関わる仕事場を訪ねて、その気候と風土で育まれてきた日本の羊毛文化の魅力と、作り手の仕事に対する誇りを取材、その道具や生産品とともに紹介した。作家活動当初より羊毛を素材としてきた眞田氏自身も作り手として作品を制作した。

「正月飾りワークショップ」では、新年を迎える感謝の念を「稲藁を綯う」「羊毛を紡ぐ」といった、自らが手間をかけて作ることで「本当の豊かさ」として体感した。

「羊を知り学び楽しむ2日間」は、親子で楽しむ手芸ワークショップ、洋裁衣服の魅力を語るトークイベント、若手デザイナーの作品が並ぶ「羊をかぶるマーケット」、編み物作家が集うニットカフェといったイベントから、多彩な羊毛文化を体験して楽しませた。

DATA

開催日時　2015年1月10日㈯～2月15日㈰ 9:00～20:00
会場　生活工房ギャラリー　来場人数　3,571名　企画制作・ディレクション：眞田岳彦（衣服造形家）　制作進行　SANADA Studio Inc.　取材協力　武藤浩史（茶路めん羊牧場）、田山敬子（岩手ホームスパン工房）、濱中知子（ハマナカ株式会社）、澤田勝徳（澤田毛糸企画創糸社）　手芸材料協力　ハマナカ株式会社　資料提供　ザ・ウールマーク・カンパニー　関連イベント会場構成　大江よう、今村滋男、関美来、永井俊平

関連企画 1

稲藁と羊毛でつくる“未年”の正月飾り
開催日時　2014年12月26日㈮、27日㈯ 13:30～16:30
会場　ワークショップルームA　参加人数　66名
参加費　各1,500円

関連企画 2

羊を知り学び楽しむ2日間「羊をかぶるマーケット」
開催日時　2月14日㈯、15日㈰ 10:00～18:00
会場　ワークショップAB

ワークショップ「ハマナカ手芸糸　羊と手の教室」《ひつじのボンボンストラップづくり》
開催日時　2月14日㈯ 14:00～16:30　会場　ワークショップルームAB　講師・材料協力　ハマナカ株式会社　参加人数　22名　参加費　1,500円

「羊　毛糸だまニットカフェ」
開催日時　2月15日㈰ 12:00～16:30　会場　ワークショップルームAB　協力　青木久美子（日本ヴォーグ社『毛糸だま』編集長）　参加人数　102名

トークイベント「銀座・羊毛・商い」の話
開催日時　2月15日㈰ 14:30～16:00　会場　ワークショップルームAB　講師　渡辺新（壱番館洋服店 代表）　進行　眞田岳彦（衣服造形家）　参加人数　46名　参加費　500円

WORKSHOP

ワークショップ

事業報告

オーダースーツの愉しみ

東京都洋服商工協同組合に加盟するテーラーは減少傾向にあるそうだが、量販店の充実により、その傾向は今後一層顕著になるだろう。本展は梅ヶ丘にある「洋服の並木」を通じて、既製服とは異なるオーダースーツの楽しみ方を紹介した。

「並木」は、60年代のイギリスで流行したモッズスーツで知られ、ミュージシャンやお笑い芸人も顧客に名を連ねる、知る人ぞ知るテーラーである。3つボタンで細身のつくりが代名詞のこのスーツを、先代の並木祐三氏が80年代に若者の要望で仕立て始めた。こだわりの多いモッズたちの仔細なオーダーに丁寧に応えるうちに「並木」のものづくりは確立され、個性豊かなスーツが次々と生まれていった。

会場では「並木」のモッズスーツをはじめ、オーダーの工程や縫製の現場などを紹介。また愛用する著名人のインタビューも行い、オーダースーツならではの魅力が語られた。

メディアやSNSの反響も高く、「並木」のものづくりが地域の文化として取り上げられることになった。

1 個性的なスーツをガラス越しに眺める　2 ユニオンジャックとモッズスーツ　3「並木」でのオーダーをドキュメント

モッズスーツと洋服の並木

DATA

開催日時　2014年11月14日㈮～12月23日㈫㈷ 9:00～20:00
会場　生活工房ギャラリー　来場人数　8,892名　アートディレクション　永井祐介（VACANT）　撮影　永峰拓也

関連企画

トークイベント「ポピュラーミュージックの中のスーツ」
開催日時　12月13日㈯ 15:00～16:30　会場　ワークショップルームA　講師　青野賢一（BEAMSクリエイティブディレクター）
参加人数　51名　参加費　500円

ワークショップ「スーツの生地で作る冬のヘアバンド」
開催日時　12月17日㈬ 10:00～12:00／14:00～16:00
会場　ワークショップルームA　講師　カナザワマイ（M+）
参加人数　17名　参加費　1,500円（材料費込・紅茶つき）

50代女性の声
近所に素敵な仕事人がいた事がわかり嬉しい。

サンドウィッチマンの伊達さんも愛用者

うるしは気持ちよい、うるしは長生き

石川県輪島市から講師を招き、漆芸から暮らしの道具を考えるデザインワークショップ。天然の塗料として縄文の昔から使われてきた樹液うるし。人はその素材とどのように向き合い、ものを作ってきたか、実験と体験をおりまぜながら、うるしの不思議を探っていった。うるしは湿度75％～85％、温度20度～30度という条件が整うことで化学変化を起して液体から固体になる。実験では、生のうるし液を日が当たる屋外・湿度の高いムロ・冷蔵庫の中に入れて、うるしがどのような条件で「固まる」か観察した。

また、長年使って艶を増した漆器で味噌汁を食し、実際に触れる・使う体験から、うるしは長生きであること、日々使うことで美しさを増すことを感じてもらった。うるし塗りの箸の木地磨きと絵付けも行い、輪島の職人がうるしの仕上げをした箸は、秋に参加者に届けられた。

1

2

3

4

1 生うるしの色の変化を観察　2 輪島塗の21工程の見本。布着せと珪藻土で強度を増すのが特徴　3 輪島塗にもさまざまな塗りの技法がある　4 うるし塗りの下準備のためしっかり木地を磨こう

夏の子どもワークショップ2014

くらし・うるし・研究室

DATA

開催日時　2014年7月20日㊐ 10:00～16:00　会場　ワークショップルームA　講師　桐本泰一（輪島キリモト）、コド・モノ・コト　対象　小学4年生～中学生　参加人数　17名（その他保護者など15名）　参加費　1,000円　協力　sitka佐々木真由子

小学5年生男子の声
はじめてさわったので、
さらさらしていておどろいた。

本物の現場でドキドキの映像体験！

2013年に引き続き、区内にあるNHK放送技術研究所を舞台にワーショップを開催した。はじめは、写真とイラストを使ったコマ撮りアニメーションの制作。いつ・どこで・だれが・なぜ・なにをしたかの企画作りでは、子どもたちのアイデアをシャッフルすることで、奇想天外なストーリーが生まれた。グループでのコマ撮り作業は根気のいる作業だが、映像が1枚1枚の静止画の連続であること、アニメーション制作の時間と手間を体験してもらった。

その後は、アナウンサーの研修スタジオで、ニュースキャスター・コメンテーター・カメラマン・プロデューサーを分担してのニュース番組の収録。プロの現場の緊張感の中、コメンテーターのアドリブも飛び出し、子どもたちのユーモア満載のニュースアニメーションが完成した。最後は保護者を招いての上映会を行った。

DATA

開催日時　2014年8月19日㊋、20日㊌ 10:00～17:00　会場・共催　NHK放送技術研究所　講師　小柳貴衛（アニメーション作家）　対象　小学3年生～中学生　参加人数　45名（その他保護者など47名）　参加費　500円

3

4

1

2

小学3年生男子の声
テレビの裏側を知り、いつも見てるテレビを
興味深く見られるようになった。

1 キャスターとコメンテーターの息もぴったり　2 みんなで記念撮影　3 コマ撮りアニメーションの撮影　4 全体に指示を出す裏方の仕事も肝心

夏の子どもワークショップ2014

夏のNEWSなアニメーション！

撮る、撮られるを体験するワークショップ形式の撮影会

中学２年生女子の声
自分の考えが形になって
日常の１つになり、
とても嬉しかった。

夏の子どもワークショップ 2014

14 歳のワンピース

14歳の心は どんな色・かたち?

今年で4年目となる14歳女子限定のテキスタイルデザインワークショップ。1日目、参加者に自分の好きなミュージシャンの歌詞やポエムなど、自分の心に響く言葉を発表してもらい、日々の思いや夢について講師と対話しながら、模様づくりのアドバイスをもらった。その後、言葉に重ねた思いを折り紙で色と形に表し、レイアウトを考え、折り紙をもとにして型染めの型紙を彫った。

2・3日目は、布用のインクを調合し、型染めとシルクスクリーンの技法を使って布にプリントした。デザインの設計図を叶えていく面白さと、そこからはみ出すアドリブの勢いと、思いが形になるワクワクとドキドキが現場には満ちる。

完成したテキスタイルは専門の工場でワンピースに仕立て、後日記念撮影会を行った。14歳の私を1枚のワンピースと写真に記録して、未来の自分に届けよう。

1 自己紹介と言葉の発表　2 折り紙や色セロファンでデザインの設計図をつくる　3 同じ形が涙になったり、ハートになったり

DATA

開催日時 2014年8月1日㊏、2日㊐、3日㊊ 11:00〜17:00［制作］、8月24日㊊ 13:00〜17:00［撮影会］　会場 ワークショップルームAB　講師 spoken words project 飛田正浩　対象 中学2年生女子　参加人数 16名（その他保護者など16名）　参加費 4,000円　協力 池田晶紀（ゆかい）

1 上手にドライバーを使いながら作業に集中　2 博士「丁寧に観察することが大切だよ!」
3 分解した部品は素材ごとに仕分けしてリサイクルに　4 最後は分解修了証を授与

子どもワークショップ 2014

分解ワークショップ──家電製品の仕組みを探ろう!

身近な家電製品、仕組みを探る楽しみ

「分解」を通じて、家電製品の仕組みを探る体験ワークショップ。今年もメーカーの協力のもと、ノートパソコン、電子レンジ、保温釜、クリーナー（今年はロボットタイプのクリーナーも登場!）を分解。メーカーの社員も「分解博士」として子どもたちの学びと好奇心をサポートする。

親子での参加なので、お母さんからは「家より新しい電子レンジ。分解するのは惜しいわぁ」の声も。ワークショップでは、大型量販店等で展示やデモ機としての役割を終えた製品を提供してもらい分解する。子どもたちにとって、いつも使っている家電製品を分解することは、見過ごしていた身近な疑問と向い合う機会でもある。子どもたちの作業に集中している真剣な表情を見ていると、「勿体ない」と感じることも、製品に対する理解と愛着を深めるためには大切なことだといえる。

製品に込められた工夫を知るたびに、「分解」とはモノづくりの原点であると改めて思うのである。

小学４年生女子の声
私も博士のように家電を
開発する人になりたいです。

DATA

開催日時 2014年11月16日㊐ 13:30〜17:00　会場 ワークショップルームAB　対象 小学3年生以上の親子2人1組　参加費 1,000円　参加人数 23組　協力 株式会社東芝　企画監修 金子金次（メディア・アドバイザー）

1 地球環境・エネルギー問題について講義　2 都立総合工科高校を会場にPHVの組み立て作業　3 完成したPHVと記念撮影　4 寒さにめげずに元気にPHVの試走に挑戦！

中学1年生男子の声
ずっと必要だから、
自動車は変化するのですね。

中学生プラグインハイブリッド教室

次世代車を組み立てよう！

中学生と考える、これからの暮らしと自動車

中学生を対象として、次世代車を通じて地球環境・エネルギー問題について考えるワークショップ。これまでも電気自動車、ハイブリッドバギーなど、自然環境に配慮したさまざまな次世代車を組み立ててきた。講座がスタートした10年前と比較すれば、一般的な環境に対する意識も向上して、街で電気自動車を見かける機会も多くなった。

今回制作した「プラグインハイブリッド（PHV）」とは、自宅の電源からバッテリー充電ができる電気自動車の機能を備えたハイブリッドカーのこと。

講座では、企業の開発者や専門家と一緒に、PHVの構造や機能、今後開発が期待される新しい燃料電池についてなど、講義や日本EVフェスティバルの見学を通じて学び、技術の進化を実感しながら、私たちの暮らしに求められる変化について考察した。最終日には、みんなで組立てたPHVバギーを試走して楽しんだ。

次世代を担う中学生だからこそ、大切な未来のために取り組んでほしいワークショップである。

DATA

開催日時　2014年9月23日㈫㊗、11月24日㈪㊡ 11:00〜16:00、12月13日㈯ 13:00〜19:00　会場　東京都立総合工科高等学校（9月23日、11月24日）、大磯プリンスホテル駐車場（12月13日）　対象　世田谷区在住、在学の中学生　参加費　3,500円　参加人数　22名　共催　東京都立総合工科高等学校　協賛　トヨタ自動車株式会社　企画制作　日本EVクラブ

関連企画

特別編「日本EVフェスティバル」の見学
開催日　11月3日㈪㊗　会場　筑波サーキット　参加人数　23名

1 “縫う、打つ、編む”のトートバッグ作り　2 朝からワインというのも休日ならでは　3 キャロットケーキのクリスマスケーキ　4 グリーンが薫る爽やかなリース作り

SUNDAY MORNING WORKSHOP

日曜の朝を愉しむワークショップ

2年目となった日曜・朝のワークショップ。今年度も〝日曜の朝をちょっと贅沢に〟をコンセプトに、異なるテーマで3本実施した。

7月の第1回は、海を感じさせる帆布とロープで「サマー・トートバッグ」。漁師や農家などの暮らしにヒントを得てものづくりを行う講師の日常を垣間見ながら、カラフルなステッチで思い思いのバッグを完成させた。9月の第2回は、食欲の秋にふさわしく「ワインとテリーヌ」。サバとイチゴの意外な組み合わせに驚き、食べて二度驚いたテリーヌ。そして生産者の個性を楽しむ自然派ワインといずれも素材の妙を愉しんだ。12月の第3回は、季節もの「クリスマスケーキとリース」。キャロットケーキと自然素材のリースは素朴だが暖かみがあり、家庭のクリスマスに彩りを添えた。

各講座とも2回完結ながら欠席も少なく高い満足度を得ている。何かをつくるだけに留まらず、ライフスタイルの提案や参加者同士の交流の起点となるような講座のあり方を今後も実践したい。

50代女性の声
日曜の午前中という時間帯も珍しく、
企画も工夫されている。

DATA

#1 朝のサマー・トートバッグ・ワークショップ
開催日時　2014年7月6日㊐、13日㊐ 10:00〜13:00　会場　ワークショップルームA　講師　TARASUKIN BONKERS　参加人数　28名　参加費　5,000円

#2 朝のワインとテリーヌのワークショップ
開催日時　2014年9月7日㊐、14日㊐ 10:00〜13:00　会場　ワークショップルームA　講師　沼田利也（「リカーランドなかます」店長）、飯村藤大郎（「tokiya」シェフ）　参加人数　31名　参加費　5,000円

#3 朝のクリスマスケーキとリースのワークショップ
開催日時　2014年12月7日㊐、14日㊐ 10:00〜13:00　会場　ワークショップルームA　講師　田代翔太（MERCI BAKE）、平松朋子（ふたつの月）　参加人数　23名　参加費　4,000円

セミナー／イベント 事業報告

SEMINAR / EVENT

1 冬越しの準備を始めたミツバチを見学、ミツロウをもらう（時のフィールドワークショップvol.1「長い夜を、ともし火で照らそう」） **2** ミツロウを使ってキャンドル作り（同）
3 公園で雑草を摘む（時のフィールドワークショップvol.2「春の道ばたで、若菜摘む」） **4** 時のドキュメンタリー上映会vol.1「一年」

時をときはなつ

時計とカレンダーの中から、時をときはなつ。

天体の動きとともにめぐる季節、くりかえす昼と夜。人間を含めた地球上のすべての生命は、自然の律動と同調しながら、それぞれのリズムを刻んでいる。しかし私たちの生活は、あまりにもその律動から遠く離れてしまった。24時間化する産業、明るい夜。比例しない時間と距離、季節を問わず手に入る食べもの。これからさらに加速度を増して〈即時化〉〈高速化〉〈均質化〉する「時」に、私たちのこころとからだはついて行けるのだろうか。

本企画で目指したのは、「自然の中に流れる時間、体の中に流れる時間」に立ち返ること。「時のフィールドワークショップ」では、フィールドに出かけていき、ほかの命の「時」と出会い、かかわる。「時のドキュメンタリー上映会」では、地球上のさまざまな地で生きる人々の「時」を、記録映像を通して想う。かかわること、想うことの中から新たな「時」を見つけ、自然とともにゆらぐ時間をさぐる企画となった。

DATA

時のフィールドワークショップ vol.1「長い夜を、ともし火で照らそう」
開催日時　2014年12月21日㊐ 10:30〜17:00　会場　ワークショップルームA、宍戸園　参加人数　15名　参加費　2,500円

時のドキュメンタリー上映会 vol.1「一年」
開催日時　2014年12月23日㊋㊗ 14:00〜17:00　会場　ワークショップルームB　参加人数　20名　参加費　800円

時のフィールドワークショップ vol.2「春の道ばたで、若菜摘む」
開催日時　2015年3月21日㊏㊗ 10:00〜15:30　会場　ワークショップルームA、近隣の公園　講師　かわしまよう子（花作家）　参加人数　15名　参加費　2,500円

時のドキュメンタリー上映会 vol.2「移動の時」
開催日時　2015年3月28日㊏ 14:00〜17:00　会場　ワークショップルームB　参加人数　30名　参加費　800円

共同企画制作　セセンシトカ　協力　宍戸園　映像資料提供　国立民族学博物館、東京シネマ新社、民族文化映像研究所、NPO法人地球映像ネットワーク　後援　在日スイス大使館

40代女性の声
1年のサイクルだけではない、
もっと大きい時の流れのようなものを
イメージする機会になりました。

現代の食を再考する

今年度は「食の再考」をテーマに、忘れかけた食の記憶や現代の食にまつわるトピックを取り上げた全5回の連続講座。

音楽家の菊地成孔氏と工学博士の坂村健氏による都市と食文化に関する初回から、『フード左翼とフード右翼』の著者・速水健朗氏とジャーナリストの清野由美氏を迎えた2回目は、近年の食とライフスタイルのつながりについて。3回目は日本文化を専門にする原田信男氏がユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」をひも解き、4回目はカナダの狩猟民族カスカと暮らした文化人類学者の山口未花子氏とジャーナリストの佐々木俊尚氏による狩猟について。そして、最終回は人類学者の石倉敏明氏と現代史研究者の藤原辰史氏を迎え、未来の食環境について話を聞いた。

全体に通底したのは食を通じた関係をいかに再構築するか、ということ。都市と地方、生産と消費、そして大衆食堂のあり方まで、工業化・情報化した食の時代ゆえに断絶された様々な関係を見直すことの必要性が語られた。

1 第1回「都市と食の文化論」菊地成孔氏（右）、坂村健氏（中）　2 第2回「オーガニックな食と思想」清野由美氏（右）、速水健朗氏　3 第4回「狩猟から考える」佐々木俊尚氏（右）、山口未花子氏　4 第5回「食べることの未来」藤原辰史氏（右）、石倉敏明氏

DATA

都市と食の文化論
開催日時　2015年1月20日㊋ 19:00〜20:30　会場　ワークショップルームB　講師　菊地成孔（音楽家）、坂村健（東京大学教授）　参加人数　82名　参加費　1,000円

オーガニックな食と思想
開催日時　2015年2月1日㊐ 14:00〜15:30　会場　セミナールームAB　講師　清野由美（ジャーナリスト）、速水健朗（ライター・編集者）　参加人数　30名　参加費　1,000円

『和食』とは何か？
開催日時　2015年2月8日㊐ 14:00〜15:30　会場　セミナールームAB　講師　原田信男（国士舘大学21世紀アジア学部教授）　参加人数　36名　参加費　500円

狩猟から考える
開催日時　2015年2月14日㊏ 14:00〜15:30　会場　セミナールームAB　講師　佐々木俊尚（作家・ジャーナリスト）、山口未花子（岐阜大学助教）　参加人数　25名　参加費　1,000円

食べることの未来
開催日時　2015年3月13日㊎ 19:00〜20:30　会場　セミナールームAB　講師　石倉敏明（秋田公立美術大学講師）、藤原辰史（京都大学人文科学研究所准教授）　参加人数　59名　参加費　500円

40代女性の声（第4回）
食べ物について新しい見方が開けたような気がします。

JAPONDER 2014

FUSION PERU　学生に聞く、ペルー共和国のこと。

映画と食からペルーの〝今〟を感じる

JAPONDER（ジャポンダー）とは、フランス語のJapon「日本」と英語のponder「熟考する、沈思する」との合成語で、2005年の第1回JAPONDERに参加した留学生により名付けられた。

今年度は南米・ペルー共和国の留学生を案内役に、フュージョン（融合）というペルーの食文化の潮流を、映画上映会と料理教室から体験した。ペルーはトマト、ジャガイモなど世界の常食の20％の原産国であり、その食文化は世界の注目を集めている。

初日の上映会では、食材の源流を辿るドキュメンタリーとマイノリティの若者たちの抱える問題を描くドラマを鑑賞し、留学生と映画プロデューサーによるミニトークも行なった。2日目は、留学生にペルーの代表的な家庭料理を習い、食し、交流を深めた。

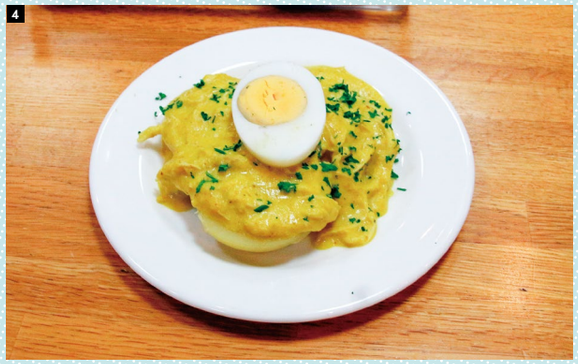
歴史遺産が有名なペルーだが、留学生を通して、現在進行形のペルーの姿、魅力を知る2日間となった。

DATA

映画上映会
開催日時　2014年11月22日㊏ 10:30〜12:30、14:00〜16:30　会場　ワークショップルームA　ゲスト　パネッサ・ロシオ・ブラカモンテ・レスマ、アルベルト・カレロ・ルゴ　協力　ラテンビート映画祭実行委員会、（株）メルカード東京農大　参加人数　67名　参加費　500円

ペルーの伝統料理×フュージョンフードの料理教室
開催日時　2014年11月23日㊐ 10:00〜15:00　会場　ワークショップルームA　講師　パウラ・サノニ、西野優（ピリカタント／妄想都市食堂）　参加人数　24名　参加費　1,500円

30代男性の声
自分では巡り合えないような映像を通して新たな世界に触れることができたから。



1 上映後のミニトーク　2 メルカード東京農大・豊原秀和氏のペルーにおける農業支援のレクチャー　3 ペルーの家庭料理の代表的な3品を習う　4 鶏肉のクリーム煮、アヒ・デ・ガジーナ

地域と市民活動

事業報告

LOCAL COMMUNITY

「発表会」は読み手も、聞き手も、真剣そのもの

朗読講座

豊かなことばの世界

ことば豊かに、くらし豊かに

言葉を綴る達人たちの文章を、言葉を伝える達人たちの導きで読んでいく。

そんな豊かな時間を求めて、今年も多くの受講者が集まった。初心者にはやさしく、リピーターには深く、講師を務めるNHK日本語センターのアナウンサーの丁寧な指導を受けて、みんなメキメキと力をつけていった。

一年を締めくくる発表会には、各講座の修了者が集う。発表希望者が多く、3時間を超えて、熱演の連続となった。終了後は、読み手も、聞き手も、たいへん満ち足りた表情を見せてくれた。

DATA

開催日時　年4回（4月期、7月期、11月期、2月期）各4講座（水曜午前・午後、木曜午後、金曜午後）　会場　セミナールームA　講師　一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター　対象　一般　参加人数　のべ632名　参加費　20,500円（4回分）、アーツカード会員は18,500円　共催　一般財団法人NHK放送研修センター日本語センター

朗読発表会

開催日時　2015年3月1日㈰ 13:30〜16:30　参加人数　60名　参加費　無料

今年度取り上げた作品

芥川龍之介「鼻」「トロッコ」
伊勢英子「チェロの木」
小川未明「赤いろうそくと人魚」
幸田文「おとうと」
志賀直哉「小僧の神様」
マーク・トウェーン（村岡花子訳）「王子と乞食」
堀辰雄「風立ちぬ」
宮沢賢治「虔十公園林」「なめとこ山の熊」
向田邦子「かわうそ」
森鷗外「山椒大夫」

80代男性の声
発表で声を出すということは、
実は自分の気持ちを外に出すことにもなります。
大変嬉しいことだと思います。

世田谷アートフリマ

20回を越え、さらに充実したイベントへ

オリジナル作品を手掛ける作り手の発表の場として春・秋の恒例となった「世田谷アートフリマ」。昨年度で20回を超え、イベントの認知も高まり、出展申込数や来場者数も増加傾向にある。イベントとしては安定期といえるかもしれないが、さまざまな意見に耳を傾けながら、改善を試みている。

今年度大きく変更した点は、実施時間の短縮である。出展者の声として毎回多く上がるのが終了時間についてであり、終了間際は人気が乏しくなることや、出展者は長丁場となるため終了前にブースを離れるケースが目についた。22回では試験的に終了を17時に変更したが、好意的な意見が多く、次回以降も検討することとなった。

春の開催にさきがけ、ギャラリーではアートフリマゆかりの作家たちによる「つながり展」も実施。展示の場を用意することで、出展者にとってはブースと異なる作品の見せ方が可能となり、創作意欲を刺激することになる。展示が次のステップとなる仕組みも今後は視野に入れたい。

DATA

開催日時
[Vol.21] 2014年4月19日㈯、20日㈰ 11:00〜18:00
[Vol.22] 2014年9月20日㈯、21日㈰ 11:00〜17:00
会場 ワークショップAB、セミナールームAB、市民活動支援コーナー
来場人数 [Vol.21] 約4,000名 [Vol.22] 約5,000名
共催 世田谷アートフリマプロジェクト 協力 世田谷233

関連企画

世田谷アートフリマつながり展2014
開催日時 2014年4月5日㈯〜20日㈰ 9:00〜20:00（最終日は18:00まで） 会場 生活工房ギャラリー 出展作家 石川亮（映像作家）、IZUMI（布花アクセサリー）、岩松修（写真）、Emi（キリハリエ）、小田ひで次（漫画）、コヤナギアイコ（クレイオブジェ）、桜木理加（イラストレーション）、Storm Machine Graphics（イラストレーション）、永井キオ（鉄オブジェ）、Hoppendakko（革） 来場人数 7,400名

3

1

4

2

1 会場には多くの人が訪れる　2 カラフルな雑貨や小物が目を引く　3 ワークショップは子どもたちに人気　4「つながり展」の様子

おはなしいっぱい

区内で活動する、おはなしの会が大集合！

「世田谷おはなしネットワーク※」と共催する本企画では、毎年、3日間のおはなし会『おはなしいっぱい』と2回の講演会を開催している。

おはなし会は、構成、出演、準備のすべてを参加者が行う市民の手作り企画として回を重ね、今年度で14回目を迎えた。幼児から小学生まで対象年齢を分けた幅広いプログラム構成で、紙芝居、すばなし、手あそび、わらべ唄、パネルシアターなどの多彩な上演を行い、特別ゲストには、千葉県で活動する市民グループを招き、地域を超えた交流も行われた。長年の活動で培われた運営のノウハウを伝えながら、夏の恒例行事として出演者、来場者とも、多くの区民に親しまれている。

絵本作家を講師に招く講演会では、作り手の想いを聞き、演者としての造詣を深めた。

※1997年活動開始。世田谷区内で活動する複数のおはなしの会が連携し、図書館などで活動中。現在、60のグループ・個人会員から成る。

DATA

開催日時 2014年8月20日㈬ 11:30〜15:00、21日㈭・22日㈮ 11:00〜15:00 会場 ワークショップルームAB 出演 20グループ 来場人数 延1,667名 共催 世田谷おはなしネットワーク 協力 世田谷区立中央図書館、世田谷区立児童館

関連企画

講演会「ぼくの絵本の作り方」
開催日時 2014年6月17日㈫ 10:00〜12:00
会場 セミナールームAB 講師 はたこうしろう（絵本作家）
参加人数 117名 資料代 100円

講演会「科学絵本て面白い！〜さがしてみよう身近な自然part2」
開催日時 2014年11月20日㈭ 10:00〜12:00
会場 セミナールームAB 講師 高柳芳恵（絵本作家／ナチュラリスト） 参加人数 78名 資料代 100円

30代女性の声
子どもが幼児の頃から参加しています。
本を読む力がつきました。

手あそびで一体になる会場

「物語」をつくる編集術ワークショップ　吉村堅樹（イシス編集学校 林頭）

NPO・市民活動のための「物語」のつくり方講座

「物語」の創造と共有が、コミュニティづくりの要

よりよい地域社会の形成に向けて、NPO、NGO、ボランティア、行政、企業、大学など、立場の異なる当事者たちによる「連携と協働」が活発になってきた。こうした地域のなかの多様性を、価値創造へと導く有効な手立てとして、今回クローズアップしたのが「物語」だ。

本講座では、「現代のビジネス神話」を問い直し、地域創造に向けて新たな「物語」を考察する【レクチャー編】にあわせて、「編集の型」を活用し、情報を発見する方法から、自らの活動や経験を表現する方法を【ワーク編】として学んだ。様々な情報が流通している現代だからこそ、情報のインプットからアウトプットまでを自在に編集できることが重要だと言える。

地域や組織を支える「物語」は、分野や領域を超えて、様々な人びとが参加して、ともに「物語」をつくりだすこと、そしてお互いがプロセスを共有することが大切。対話による「物語」の創造と共有は、コミュニティづくりの要である。

30代男性の声
普段のカタイ頭がほぐされるようでした。

DATA

レクチャー編「つつんで、ひらくコミュニティ：地域創造に向けた『5つの物語』」
開催日時　2015年2月17日㈫ 18:30〜21:00　会場　セミナールームAB　講師　設楽剛（設楽剛事務所 代表）　参加人数　29名　参加費　1,000円

ワーク編「『物語』をつくる編集術ワークショップ」
開催日時　2015年2月24日㈫ 18:30〜21:00　会場　セミナールームAB　講師　吉村堅樹（イシス編集学校 林頭）　参加人数　32名　参加費　1,000円

企画　株式会社世田谷社

市民活動支援コーナー

市民活動の交流の場としての日々

生活工房には、区内の公益的な市民活動団体が登録して日常的に利用する「市民活動支援コーナー」がある。

本年は同コーナーに登録している団体が中心となり、「市民活動支援コーナーの日々展2014」、恒例となった交流イベント「市民活動体験喫茶パオ」も開催。さまざまな活動をしている各団体が日頃の成果をパネル展示や活動ブースを設けて紹介した。団体間のコミュニケーションを深めながら、来場者へ向けた発表の場としても好評を得た。

「市民活動体験喫茶パオ」の様子

DATA

場所　生活工房3F　開館時間　9:00〜21:00（月曜休館）　委託先　特定非営利活動法人国際ボランティア協会（IVUSA）　来場人数　19,896名

関連企画

パオフェスタ2014 市民活動体験喫茶パオ
開催日時　2014年10月18日㈯、19日㊐ 11:00〜18:00　会場　市民活動支援コーナー　来場人数　782名

市民活動支援コーナーの日々展2014
開催日時　2014年6月14日㈯〜7月13日㊐ 9:00〜20:00　会場　生活工房ギャラリー　来場人数　3,621名

第4回世田谷区芸術アワード“飛翔”

これからの「生活デザイン」

いま私たちが求めるデザイン。そう評価され、受賞に輝いたのは、『CASA PROJECT』。不要になった傘を生まれ変わらせるプロジェクトだ。代表のHOUKO氏は、「日々の暮らしの中には、見方を少し変えるだけで生活をより楽しく豊かにするヒントがたくさん潜んでいます」と語り、生活工房との相性はカンペキ。2015年度に予定されている受賞記念の展示会、ワークショップにご期待ください。

授賞式での一コマ。保坂展人世田谷区長から花束を受け取るHOUKO氏

DATA

「世田谷区芸術アワード“飛翔”」とは
世田谷区とせたがや文化財団が、将来性ある35歳以下のアーティストを奨励・支援するため、制定した賞。5部門からなり、生活工房は、生活デザイン部門を担当する。募集と受賞記念発表を隔年で行い、受賞者には創作支援金と翌年度の発表の機会が提供される。

共催　世田谷区　募集期間　2014年5月11日㊐〜9月5日㈮　応募作数　7件（生活デザイン部門）　表彰式　2014年12月13日㈯　会場　世田谷美術館講堂　発表展示　2015年10月、生活工房にて開催予定

第23回国際交流inせたがや2015

国際色豊かなPRブースの出展者たち

区民による手づくりの国際交流

生活工房では、区民団体が行う国際交流事業を共催し、サポートしている。

今年で第23回目となった「国際交流inせたがや」は、在日外国人との文化交流をテーマに行われている、区民手づくりの国際交流事業である。各国の大使館大使、書記官等を来賓に迎え、約360名が参加。日本の伝統楽器の演奏やロシア舞踊などのアトラクション、お茶や和服の着付けなどの日本文化の体験コーナーも設置された。

また、13か国のPRブースが出展、各国の特産品の販売や文化紹介が行われ、区民と在日外国人との交流が行われた。

DATA

開催日時　2015年2月21日㈯ 13:00～16:00　会場　ワークショップAB、セミナールームAB　参加費　1,000円　来場人数　約360名　共催　世田谷海外研修者の会

世田谷市民活動支援会議

世田谷の市民活動、応援します

世田谷は、市民活動が盛んだ。NPOやボランティア団体など、実にさまざまなグループが活動している。世田谷市民活動支援会議は、「より良い地域社会を作るための市民活動」を支えるネットワーク。行政である世田谷区と施設や助成金の提供など、多様な形で活動を支える中間支援団体で構成されている。毎月連絡会議を開くと共に、市民活動団体へのヒアリング調査や「広報」をテーマにした勉強会などを行った。

熱心に勉強会に参加するメンバー

DATA

他の構成団体　世田谷区生活文化部市民活動推進課、特定非営利活動法人世田谷NPO法人協議会、社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会、一般財団法人世田谷トラストまちづくり、社会福祉法人世田谷ボランティア協会、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会、NPO昭和

ギャラリーカフェくりっく壁面展示

「シルクスクリーン版画展」

DATA

開催日時　2014年4月6日㈰～2015年3月31日㈫ 平日9:00～20:30、土11:00～20:30、日祝11:00～19:00　会場　ギャラリーカフェくりっく　参加数　13企画（展示期間各4週間）　来場人数　65,806人　展示費用　15,000円

年間スケジュール　「わくわくアート作品展」「五月会 水彩画展」「城 知栄子 水彩画展／な・か・に・わ」「動体を撮る」「スケッチで遊ぶ水彩画展」「海からの便り 1マイル写真展」「第3回ゆりの会シェイプアート展」「アトリエばーばらの会」「世田谷木版画の会」「シルクスクリーン版画展」「『色の波動』KoKo＆フラワーセラピー花音」「都会の季節」「花に魅せられてⅦ」

市民アーティストの表現の場

三軒茶屋駅前の様子を窓越しに臨む、開放的でカジュアルな雰囲気のカフェ空間「ギャラリーカフェくりっく」（キャロットタワー2F）。その壁面は、市民が自らの作品を自由に発表する「市民アーティストの表現の場」で、油彩、水彩、押し花、写真、造花やワイヤークラフト、版画、シルクスクリーンなどさまざまな作品群が、定期的に展示されるアートギャラリーだ。

森・里・海の連環による豊かな海づくり「レリーフジオラマ」

紅葉に山肌が色づく秋のシーン

DATA

開催日時　2014年4月～2015年3月（上映日数155日）
会場　八角堂　来場人数　5,292人
※本作品は、韓国で開催された2012麗水国際博覧会の日本館で展示後、一般財団法人地球産業文化研究所から寄贈された。

自然の循環と人との関わりをめぐる映像体験

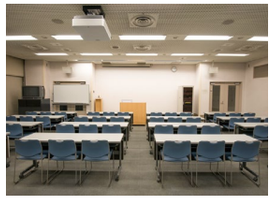
リアス式海岸をイメージした真っ白なレリーフに映し出される景色と合わせ、正面のスクリーンでは、森と海とのつながりと自然を守り育てる人々の様子を紹介。日本の四季折々の美しさ、豊かさに触れながら、自然の循環と人の関わりについて、短い時間で学ぶことができる。ナレーションを排し、映像と音楽のみで展開するプロジェクションマッピングの迫力に、小さな子どもから大人までが惹きつけられ、何度も繰り返し鑑賞する姿がしばしば見られた。

生活工房は、地域の人々の活動や発表の場！

生活工房では多彩な設備を備えたスペースで独自の企画を行うほか、
市民団体などにお部屋を貸し出しています。
スペースごとに登録条件・利用方法などが異なりますので、詳細はお問い合わせ下さい。

5F 講演会やミーティングに最適

「セミナールーム」は、講習会や会議に適したスペースです。プロジェクターを含む映像・音響設備も備え、効果的なプレゼンテーションが可能です。A・B各部屋の可動式間仕切りを外せば最大で120名（机椅子使用時は108名）まで収容できます。



貸出対象スペース
セミナールームA
74㎡／定員48名／利用時間9時〜22時

貸出対象スペース
セミナールームB
83㎡／定員48名／利用時間9時〜22時

4F ものづくりや展示を楽しむ

「ワークショップルームA」は、“ものづくり”やトークイベントに対応したスペースで、併設のキッチン（63㎡）には、各種厨房用品も備えています。多人数の交流会にも最適です。
「ワークショップルームB」は、扇形の壁面が特徴的な展示スペースです。可動パネルで室内のレイアウト変更ができ、多様な展示が行えます。音響や映像機器を使った集会等の開催も可能です。

貸出対象スペース
ワークショップルームA
126㎡／定員50名／利用時間9時〜22時

貸出対象スペース
ワークショップルームB
145㎡／定員50名／利用時間9時〜22時

3F 生活工房の展示や市民活動の拠点

「生活工房ギャラリー」は、暮らしのデザインやクラフト、異文化紹介などをテーマに、生活工房が主催する企画展示を行っています（一般への貸出はしていません）。
「市民活動支援コーナー」は、世田谷で活動している市民活動団体が打ち合わせや作業を行うことができるスペースです。パソコンや印刷機などの利用も可能です（有料）。

生活工房ギャラリー
開館時間：9時〜20時

市民活動支援コーナー
利用時間：9時〜21時

2F 壁面ギャラリーで作品発表

「カフェくりっく」は、壁面を使って一般公募による作品展示を行っています。写真、イラスト、版画、絵画、押し花など約1ヶ月ごとに入れ替えます。

貸出対象スペース
ギャラリーカフェくりっく
営業時間：
平日9時〜20時30分
土曜11時〜20時30分
日祝11時〜19時

つぶやきからみる生活工房

生活工房についてのさまざまな投稿を集めてみました。
展覧会やワークショップについての感想が率直に、
素敵なことばで綴られています。抜粋してご紹介します。

2014

5/23 福島の写真っていうとやれ瓦礫だやれ津波だと思われがちですが、ここは一枚の写真をもとに対話して生まれる詩と写真を展示していてほっこりと響くものがありました。

6/7 遠くに避難した子供の言葉「**また故郷のダム湖の風にあたりたい**」に胸を突かれた。「写真とことば、記憶の種」

8/3 イルリメの民話ラップやばい。

8/9 世田谷民話グラフィック展。面子すごいし、出来上がったものかっこいいし、**地域のことに興味もてるし、いいもの見た。**

8/21 世田谷民話グラフィックを見てきました。とても良かったです。大原大次郎さんの描き文字を拝めました。少しぞっとしながら音源を視聴している横でお子さまがギャハハとスタンプ押していたりして変な感じでした。

8/31 世田谷民話グラフィック展最終日。野毛の大塚古墳といえば生まれ育った土地！ なんかうれしい！

8/31 「世田谷民話グラフィック展」ヘンで面白かった〜。**とても軽やかに土着と接続している。**民謡も民話も本来そういうもんだす

9/5 世田産とても綺麗でかわいくて楽しかった。

10/25 記録映像上映「サハリンのウイルタを訪ねて」を観てきた。映像に出てきた大人も子供も、みんな爪が短くて、爪の間に土が入っていて汚れているんだけど、**生きている美しい手**でした。白髪で枯れ枝の様なおばあさんが、トナカイに乗って操ってる姿が格好よかったなぁ。

10/31 仕事後、ウイルタ展に４度足を運びました。後にも先にもこんなに充実したウイルタ展は都内、いや関東圏では行われないでしょう。素晴らしかった。

11/1 樺太の少数民族ウイルタの装飾品がどれも可愛くてツボに入りまくり。いいなあ、いいなあ。図録あれば欲しいなあ。

11/16 生活工房ギャラリー大好き

12/4 命を懸けて伝えるって並大抵じゃないよね。「1 枚の写真が国家を動かすこともある」Days Japan。

12/7 DAYSJAPAN 写真展。私の知らない社会問題が心に刺さりまくったのだけど、どの写真にも強く生きる人達が写っていた。**それでも続く日常への諦めと残酷さと、笑顔と希望と。**

12/7 「モッズスーツと洋服の並木」展を見てきました（・▽・）モッズカルチャーの話からスーツが出来る過程まで詳しく説明してあって興味深かったです。芸人さんも作ってたのは意外。

12/8 DAYSJAPANの写真展にいってきました。シリアの子供達、インド反原発運動……胸に突きつけられる真実。ひとりの力は小さいけれど、ひとりぶんの力はあるのです。無ではない。「人々の意思が戦争をとめる日が必ず来る」

12/12 「モッズスーツと洋服の並木」展に来た。友達から、狭いよと聞いていたので期待せずに来たが内容が濃くてかなりご満悦。ワクワクする気持ち、職人魂とかいいよね。**お洒落と音楽が交わってる最高にカッコイイ洋服！**

12/12 キャロットタワーで「モッズスーツと洋服の並木」展。この展示会をディレクションした人とか並木のお客さんとかお店の方とか**いろんな人たちの愛情**を感じました。愛にあふれてあったかかった。

12/17 ワークショップ「スーツの生地で作る冬のヘアバンド」で、久しぶりのお裁縫！ 皆様の暖かいご協力の元なんとか出来た！ とても楽しかったから、これからも頑張ろうかな（´▽`）

12/21 都内の養蜂場さんを見学&みかん収穫→そこでとれたミツロウでキャンドル手作り。いろいろ新鮮でたのしかった！

2/13 羊と手 衣服と作り手、その生き方展。羊から身近な毛糸を作っている、使っている人達のインタビューや、使っている道具の一部が展示されている。小さいながらも内容の良い展示でした。

3/11 「ブナ帯★ワンダーランド」何より設営が素晴らしく、四季折々のブナ林を歩くように自然科学、文学、絵画など**重層的で広がりある展示**が見事。

2015

数字でみる

生活工房のデータベース2014

2014.4.1—2015.3.31

来場者数

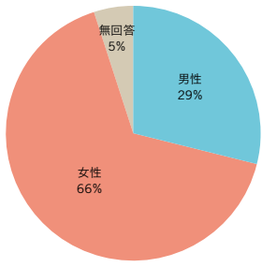
来場者総数	193,805名
展覧会	61,016名
※関連イベント参加者を含む	
ワークショップ	535名
セミナー・イベント	1,015名
地域と市民活動	97,767名
貸館使用者・来場者	26,072名

事業数

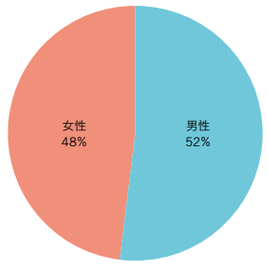
事業総数	99件
展覧会	11件
関連イベント	26件
ワークショップ	12件
セミナー・イベント	24件
地域と市民活動	26件

データのある約1400件のアンケート回答からまとめました

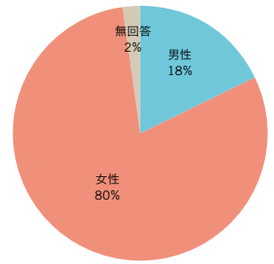
比べてみよう！ 来場者の男女比



26年度年間計



男性が最も多かった展覧会
「DAYS JAPAN 2014 地球の上で生きる」



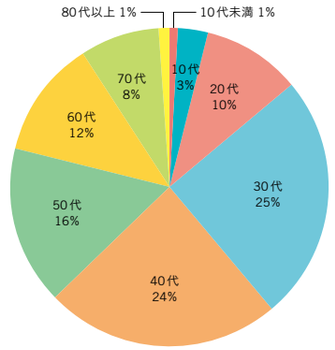
女性が最も多かった展覧会
「羊と手 衣服と作り手、その生き方」

まとめてみよう！

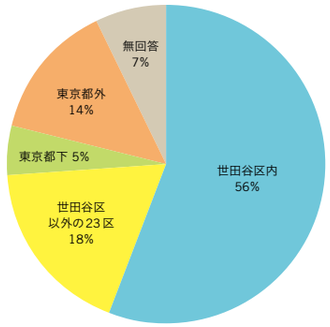
男性も女性も、一番多く来ているのは30代、ついで40代。

ワークショップは区内＞区外、展覧会や講演・セミナーは区内≦区外の傾向です

来場者の年代

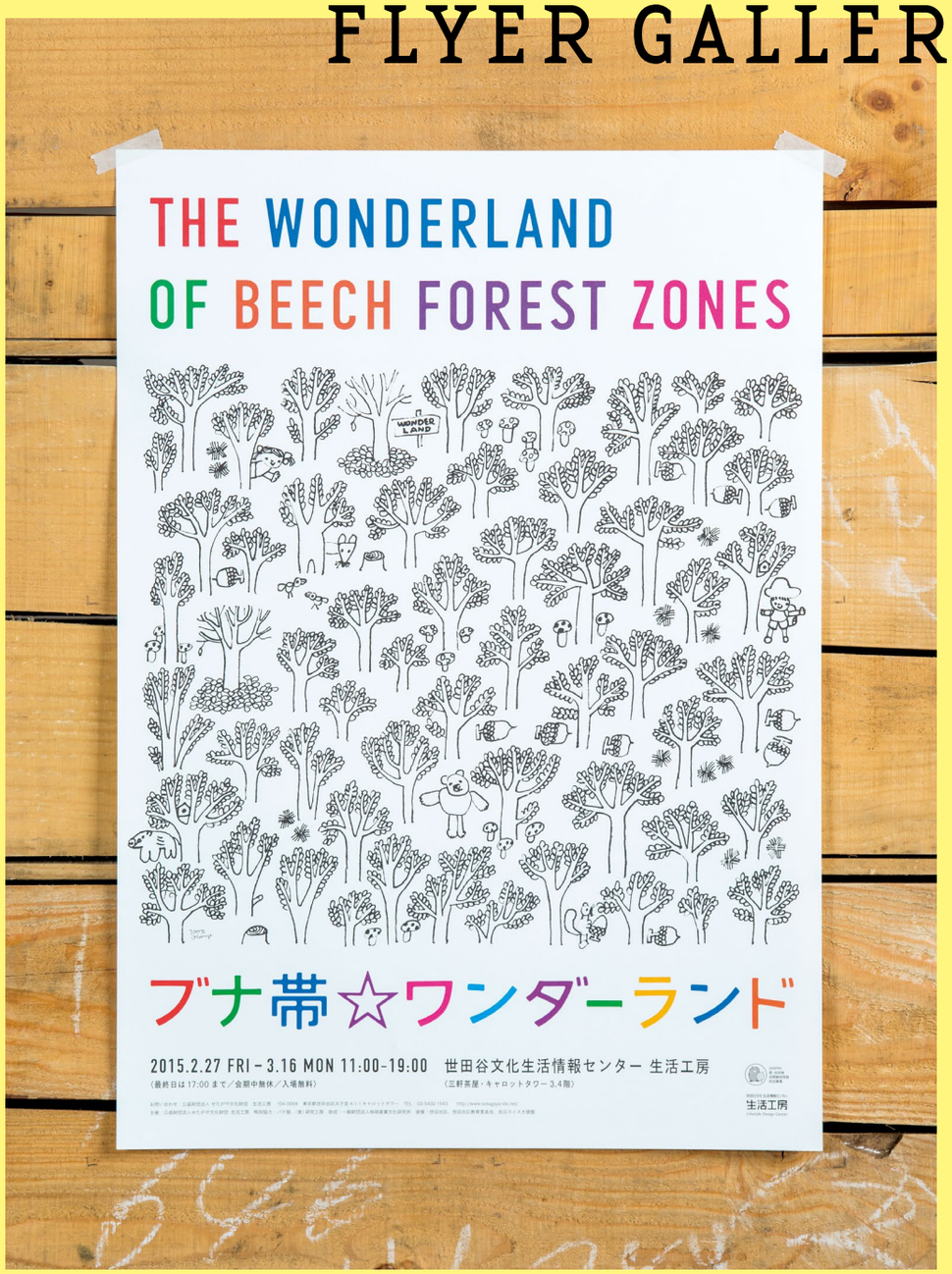


来場者の住まい



FLYER GALLERY

「時をときはなつ」 デザイン＝佐々木真由子（sitka）



「ブナ帯☆ワンダーランド」 デザイン＝小板橋基希（アカオニデザイン）

撮影：佐藤基

区内外の様々な施設で配布するフライヤー。
生活工房の事業を知る“きっかけ”を生むフライヤーは、
デザイナーの方々と練りに練って出来上がります。
ここではその一部をご紹介します。

「世田谷民話グラフィック展」　デザイン＝菊地敦己
「JAPONDER2014」　デザイン＝吉田達矢（GEWGAW）
「羊と手」　デザイン＝サナダスタジオ
「写真とことば、記憶の種　福島―東京」　デザイン＝上浦智宏（ubusuna）

「朝のサマー・トートバッグ・ワークショップ」　デザイン＝坂本陽一（mots）　写真＝大城亘（camenokostudio）
「朝のワインとテリーヌのワークショップ」　デザイン＝坂本陽一（mots）　写真＝菊池良助
「朝のクリスマスケーキとリースのワークショップ」　デザイン＝坂本陽一（mots）　写真＝阿部健
「一服、日本茶、三軒茶屋」　デザイン＝福原奈津子（パレットデザイン）

「知の航海　食べることの未来」　デザイン＝溝端貢　絵＝宮本三郎
「知の航海」　デザイン＝浮舌大輔
「NPO・市民活動のための『物語』のつくり方講座」　デザイン＝世田谷社
「DAYS JAPAN 写真展 2014」　デザイン＝世田谷社

「モッズスーツと洋服の並木」　デザイン＝永井祐介（VACANT）
「オホーツク海とウイルタのイルガ」　イラスト＝塩川いづみ　デザイン＝大西隆介（direction Q）
「世田産―セタガヤデザインプロジェクト」　デザイン＝昭和女子大学環境デザイン学科
「分解ワークショップ」　デザイン＝古山菜摘

生活工房　次年度事業（4月〜6月）のご案内

4.4㊏—4.19㊐　世田谷アートフリマつながり展2015
4.18㊏・19㊐　世田谷アートフリマvol.23
4.24㊎—5.24㊐　働く女性の衣装　大原女とあんこさん
5.29㊎—6.21㊐　DAYS JAPAN写真展2015
6.21㊐・7.4㊏　時をときはなつvol.3

※詳細はホームページをご覧ください。

リース製作：平松朋子　撮影：佐藤基

生活工房アニュアルレポートとは——生活工房の1年間の活動をまとめた記録・報告書です。

ご支援・ご協力いただいた企業、団体、教育・公共機関等

（各50音順・敬称略）

共催　NHK放送技術研究所、（一財）NHK放送研修センター日本語センター、世田谷アートフリマプロジェクト、世田谷おはなしネットワーク、世田谷海外研修者の会、（株）デイズジャパン、東京都立総合工科高等学校

助成　（一財）地球産業文化研究所

協賛　トヨタ自動車（株）

協力　（有）相川合成樹脂工業所、アカオニデザイン、（公財）味の素食の文化センター、伊藤園、岩手ホームスパン工房、宇田川ブリキ店、ヴィジュアルフォークロア、大広民芸店、カクバリズム、上山市観光物産協会、北アルプス展望美術館、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館、ザ・ウールマーク・カンパニー、佐々木製茶、SUNUS（サナス）、澤田毛糸企画創糸社、（有）繁岡美術、宍戸園、sitka、（公財）下中記念財団、セン設計所、世田谷区立郷土資料館、世田谷区立児童館、世田谷区立中央図書館、世田谷美術館分館宮本三郎記念美術館、世田谷文学館、タツミ茶園、NPO法人地球映像ネットワーク、茅野市神長官守矢史料館、茶路めん羊牧場、（株）東芝、（株）友成工芸、（公社）日本茶業中央会、日本電波ニュース（株）、馬喰町ART+EAT、ハセ川はく製、八幡平の葛根田ブナ原生林を守る会、パテ屋・〈食〉研究工房、ハマナカ（株）、HIGURE 17-15cas、日知舎、100%ORANGE、NPO法人フードデザイナーズネットワーク、フレップ会、plaplax、北海道立北方民族博物館、ポレポレタイムス社、（株）まちづくりカンパニー、（財）宮本記念財団、（一社）民族文化映像研究所、（株）メルカード東京農大、ゆかい、ラテンビート映画祭実行委員会

後援　世田谷区、世田谷区教育委員会、在日スイス大使館、昭和女子大学現代ビジネス研究所昭和デザインオフィス、鶴岡市

生活工房アニュアルレポート2014
発行日：2015年4月18日

デザイン：片山中藏
カバーイラスト：塩川いづみ

印刷：株式会社山田写真製版所
協賛：株式会社東急コミュニティー
編集・発行：公益財団法人せたがや文化財団　生活工房
〒154-0004　東京都世田谷区太子堂4-1-1
電話：03-5432-1543　ファックス：03-5432-1559
http://www.setagaya-ldc.net

本書の無断転写、複製、転載を禁じます。
©Setagaya Arts Foundation Lifestyle Design Center 2014-2015　Printed in Japan

世田谷文化生活情報センター
生活工房
Lifestyle Design Center

公益財団法人せたがや文化財団　生活工房
東京都世田谷区太子堂4-1-4
TEL 03-5432-1543（代表）

http://www.setagaya-ldc.net/